

## 第2章

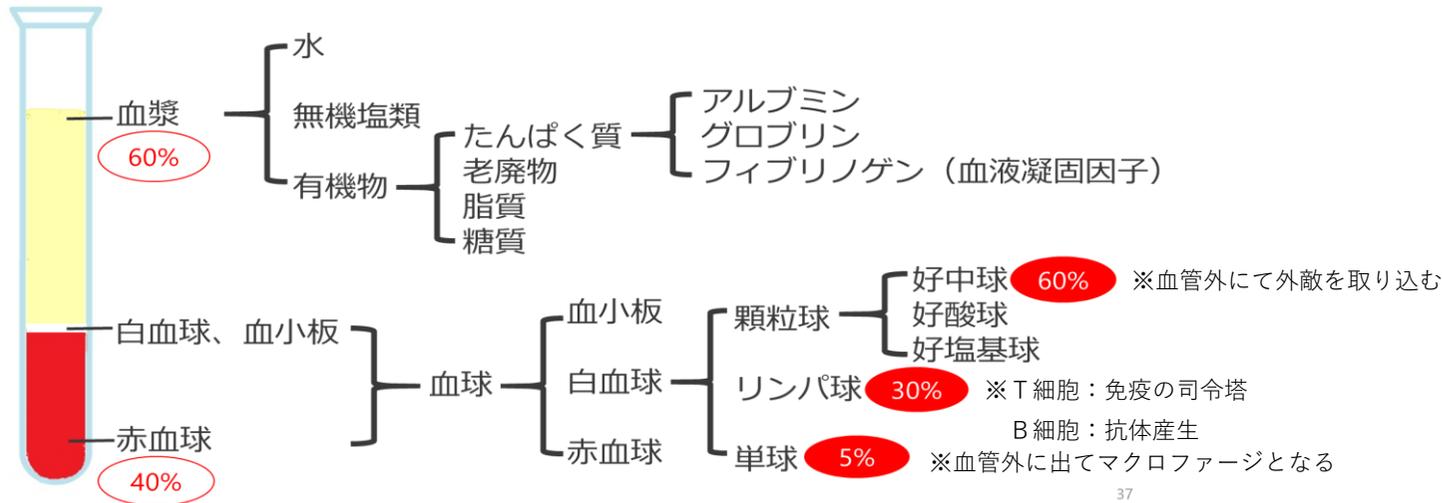
### 資料1 消化器系（消化管：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肛門 消化腺：唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓）

	胃	小腸	膵臓	肝臓	胆嚢	大腸
キーワード	食物の一時保管、消化	消化、吸収	膵液、ホルモン分泌	貯蔵、解毒	胆汁貯蔵、脂質代謝	便を作る
産生物質 または 分泌物質	<b>【分泌物質】</b> ・胃酸（強酸性）：胃の内容物の腐敗や発酵を防ぐ ・ペプシノーゲン ・粘液：ビタミンB12の吸収にも関わる		<b>【分泌物質】</b> ・膵液（弱アルカリ性） ①トリプシノーゲン ②アミラーゼ ③リパーゼ ・ホルモン ①インスリン ②グルカゴン	<b>【産生物質】</b> ・コレステロール：胆汁酸やホルモンの原料 ・フィブリノーゲン：血液凝固因子 ・アルブミン：血漿タンパクのうち約60%を占め、血中の薬物と結合する ・必須アミノ酸以外のアミノ酸 ・胆汁		<b>【産生物質】</b> ・ビタミンK：血液凝固や骨へのCa定着に必要なビタミンで、腸内細菌によって産生される
機能	・胃適応性弛緩 ・胃酸によりペプシノーゲンはペプシンとなる ・たんぱく質がペプシンによって半消化された状態をペプトンと呼ぶ	・栄養素は門脈から肝臓へ ・十二指腸に膵管と胆管の開口部があり膵液と胆汁を腸管内に送り込む ・腸液によりトリプシノーゲンがトリプシンになる ・トリプシン：タンパク質（ペプトン）をさらに消化	・糖、タンパク、脂質全ての消化酵素分泌	・糖をグリコーゲンにして貯蔵 ・脂溶性、水溶性ビタミンの貯蔵 ・解毒 ①アルコール→アセトアルデヒド→酢酸 ②アンモニア→尿素	・肝臓で作られた胆汁の貯蔵 ・古くなった赤血球、コレステロールの排出	・水分や電解質（Na,K,リン酸など）の吸収 ・食物繊維（難消化性多糖類など）の発酵分解
特徴	・胃での食物の滞留時間 ①炭水化物：短い ②脂肪：長い	・全長6-7m ・十二指腸、空腸、回腸からなる（空腸：回腸＝概ね4：6だが、明確な境目はない） ・十二指腸は、胃から連なる約25cmのC字型に彎曲した部分。 ・絨毛に覆われている		・横隔膜の下にある ・腹腔内で最大の臓器	・胆汁の成分 ①胆汁酸：脂質の消化と脂溶性ビタミンの吸収 ②ビリルビン：ヘモグロビン分解後の代謝物	・上行結腸→横行結腸→下行結腸→S状結腸→直腸 ・糞便はS状結腸にたまっており、直腸へと送られると便意を感じる。 ・糞便の組成 ①水がほとんど ②腸壁上皮細胞：15-20% ③腸内細菌の死骸：10-15% ④食物の残滓：5%

第2章  
資料2 ビタミン一覧

種類	脂溶性ビタミン				水溶性ビタミン				
	ビタミンA	ビタミンD	ビタミンE	ビタミンK	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンB6	ビタミンB12	ビタミンC
別名	レチノール	カルシフェロール	トコフェロール	フィロキノン メナキノン	チアミン	リボフラビン	ピリドキシン	シアノコバラミン	アスコルビン酸
キーワード	目	骨	血流	血液凝固	神経	口	皮膚	赤血球、神経	メラニン
主な作用	・皮膚・粘膜を正常に保つ ・暗順応や視力を保つ	・カルシウムの吸収促進 ・骨・歯の形成	・過酸化脂質の生成抑制（抗酸化作用） ・血流改善	・血液凝固作用の保持 ・骨・歯の形成	・炭水化物からのエネルギー産生 ・神経機能維持 ・腸管運動促進	・脂質代謝 ・皮膚粘膜の機能維持	・たんぱく質代謝 ・皮膚粘膜の機能維持	・赤血球の形成を助ける ・神経機能を保つ	・過酸化脂質の生成抑制（抗酸化作用） ・メラニン色素の生成抑制
欠乏症 適応症	・夜盲症 ・目の乾燥	・骨歯の発育不良 ・くる病	・更年期における首肩のこり ・月経不順の改善 ・ホルモン分泌調節	・出血傾向	・脚気 ・神経痛	・口内炎 ・口角炎 ・口唇炎	・皮膚炎 ・口内炎 ・口角炎 ・口唇炎	・貧血（ビタミン欠乏性貧血） ・神経痛	・しみ ・そばかす ・日焼けなどの色素沈着改善 ・歯茎や鼻出血の予防
特記事項	・妊娠前後3カ月での過剰摂取（1日10000国際単位以上）で先天性異常の割合増加 ・一般用医薬品では一日4000国際単位が上限	・腎臓でビタミンD→活性型ビタミンDに変換される	・目薬：末梢の微小循環の促進	・大腸の腸内細菌によって産生される		・尿が黄色くなることがある ・目薬：角膜の酸素消費能を増やす	・貧血用薬：ヘモグロビン産生（たんぱく代謝作用のため）を助ける ・目薬：アミノ酸代謝	・胃粘液はVB12の吸収に関わる ・目薬：目の調節機能の回復、神経機能の保持	・VCがヨウ素と反応し脱色すると殺菌作用が低下する ・貧血用薬：VCは鉄の吸収をUPさせる
肝臓	貯蔵								
胆嚢	吸収								

第2章  
資料3 血液の構成



血漿タンパク

種類	アルブミン	グロブリン	フィブリノゲン
キーワード	浸透圧、薬と結合	免疫、抗体	血液凝固
機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液の浸透圧を保持</li> <li>ホルモンや医薬品成分と複合体を形成し、代謝や排泄を受けにくくする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その多くが免疫グロブリンと呼ばれ、免疫反応のうち抗体として働く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィブリノゲン→フィブリンとなり、出血を止める</li> <li>血小板から放出される酵素により上記反応が起こる</li> </ul>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルブミンと複合体を作った成分は、肝臓で代謝されず、腎臓でろ過されない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>免疫グロブリンにより肥満細胞が刺激され、刺激物質であるヒスタミンやプロスタグランジンなどが放出される</li> </ul>	

赤血球

血液中の割合	40%
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸素を運搬する</li> <li>ヘモグロビンを含む</li> </ul>
ヘモグロビン	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄を含んだ赤色色素</li> <li>ヘム鉄+グロビン (タンパク)</li> <li>産生に鉄分が必要</li> </ul>
貧血	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄欠乏性貧血：一般用医薬品の貧血用薬の適応対象</li> <li>ビタミン欠乏性貧血：赤血球産生に必要なVB1 2の欠乏</li> </ul>

第3章  
資料1 成分名一覧

成分名一覧 内服薬（主に風邪症状に使う成分）

※成分名の太字部分：ここを覚えることで、何の薬かを判断することができる

解熱鎮痛薬	中枢性解熱鎮痛薬	アセトアミノフェン	抗炎症効果ほとんどなし。市販薬のうち、基本的に小児（15歳未満）に使われる解熱鎮痛剤はアセトアミノフェンである。他に使えるものにエテンザミドとサリチルアミドがあるが、これらは水痘・インフルエンザの時は使用できない。
解熱鎮痛消炎薬	ピリン系	イソプロピルアンチピリン	市販薬唯一のピリン系解熱鎮痛剤。副作用に注意
		イブプロフェン ロキソプロフェン	イブプロフェンピコノールはキキ薬なので混同しないこと。重篤な副作用：肝機能障害、腎障害、無菌性髄膜炎 ※現時点、手引きへの記載はありません。
	サリチル酸系	アセチルサリチル酸（アスピリン）	アスピリン喘息注意。ライ症候群との関連性から15歳未満の小児×。ピリン系ではない。
		エテンザミド サリチルアミド	A C E 処方の中の一成分。エテンザミドは胃でサリチルアミドになる。
鎮咳成分	非麻薬性鎮咳薬	ノスカピン	延髄の咳嗽中枢に作用。
		ジメモルファンリン酸塩	
		デキストロメトルファン臭化水素酸塩	
		クロベラスチン塩酸塩 チペピジンヒベンズ酸塩	
	麻薬性鎮咳薬	コデインリン酸塩 ジヒドロコデインリン酸塩	延髄の咳嗽中枢に作用。モルヒネと同じ構造を持ち依存性がある。2018年の手引きで、原則、本剤を12歳未満の小児等に使用しないこととなった。副作用として眠気、便秘。
	気管支拡張成分	アドレリン作動薬	メチルエフェドリン塩酸塩
マオウ トリメトキノール塩酸塩			
キサンチン誘導体		ジプロピリン	気管支平滑筋に直接作用する。中枢神経興奮作用があるので、てんかんの人は注意。心臓刺激作用あり、副作用として動悸。
去痰成分	気道粘膜分泌促進剤	ブロムヘキシシン塩酸塩	分泌促進作用・溶解低分子化作用・線毛運動促進作用を示す。 (別名：グアヤコールグリセリンエーテル)
		グアイフェネシン グアヤコールスルホン酸カリウム	
		カルボシステイン塩酸塩	
	粘液成分調整剤	エチルシステイン塩酸塩 メチルシステイン塩酸塩	痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。(痰のジスルフィド結合(-S-S-)切断による作用。)
		気道粘膜潤滑剤	アンプロキソール
抗ヒスタミン薬	第一世代	クロルフェニラミンマレイン酸塩	睡眠改善薬の成分でもある。母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
		ジフェンヒドラミン塩酸塩	
		ジフェニルピラリン塩酸塩	
		カルピノキサミンマレイン酸塩 クレマスチンフマル酸塩	
	第二世代	アゼラスチン	まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。 ※現時点、手引きへの記載はありません。アレグラの成分。 2017年2月より2類へ移行。
		メキタジン	
		フェキソフェナジン	
		セチリジン塩酸塩 ケトチフェンフマル酸塩	
抗アレルギー剤	ヒスタミン遊離抑制剤	クロモグリク酸ナトリウム	

第3章  
資料1 成分名一覧

交感神経刺激薬 (血管収縮薬)	点鼻	テトラヒドロソリン塩酸塩 ナファゾリン塩酸塩	
	点鼻、内服	フェニレフリン	
	内服	プソイドエフェドリン塩酸塩 dl-メチルエフェドリン塩酸塩	パーキンソン病治療薬、モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン）を使用中の人は注意。併用により交感神経刺激作用↑。モノアミンとはドパミンなどの神経伝達物質のこと。
抗コリン薬	抗コリン薬	ヘラドンナ総アルカロイド ヨウ化イソプロパミド	ナス化の植物。副交感神経遮断作用。女性が目を大きく見せる（瞳孔を拡大させる）ための散瞳剤として使っていた。
抗炎症成分	抗炎症成分	グリチルリチン酸二カリウム	鼻炎薬、のどの薬、胃薬、目薬にも含まれる
		カンゾウ	グリチルリチン酸が主成分
		トラネキサム酸	凝固した血液を溶解されにくくする働きあり。血栓のある人は注意。
	消炎酵素	セミアルカリプロテイナーゼ プロメライン リゾチーム塩酸塩	フィブリノーゲン・フィブリン分解作用あり。血液凝固異常のある人では出血傾向を悪化させるおそれあり。どちらの成分も含有する商品はほぼ0だが、2018年の試験では何か所かで出題された。リゾチームが使用中止になったため今後市場からなくなる可能性あり。 卵白アレルギー注意、2016年に有効性が認められず使用中止になった。内服は2018年、手引きから削除された。
鎮静成分	化学成分	プロモバルレル尿素	鎮痛剤と一緒に入っていることが多い。大量摂取による急性中毒が多い。依存性あり。催奇形性あり、妊婦使用不可
		アリルイソプロピルアセチル尿素	鎮痛剤と一緒に入っていることが多い
	生薬	チョウトウコウ	
		カノソウ	
		チャボトケイソウ	別名バツシフローラ
うがい薬 またはのどスプレー	殺菌消毒成分	ヨウ素系殺菌消毒薬、ポビドンヨード	甲状腺疾患のある人は注意。VCと反応して脱色、殺菌力が低下。
		セチルピリジニウム塩化物	VICKSドロップスに配合。
		デカリニウム塩化物	
		ベンゼトニウム塩化物	
	抗炎症薬	アズレンスルホン酸ナトリウム	抗炎症作用と粘膜修復作用を併せ持ち、のどが弱い人にも使える
酔い止め薬	抗めまい薬	ジフェニドール塩酸塩	内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節、内耳への血流改善作用を示す。抗ヒスタミン作用と抗コリン作用がある。
	抗ヒスタミン薬	クロルフェニラミンマレイン酸塩	
		ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	
		ジメンヒドリナート	ジフェンヒドラミンテオクル酸塩の一般名（ジフェンヒドラミンと8-クロルテオフィリン塩を合成したもの）。
		メクリジン塩酸塩	遅効性だが長時間持続する
	局所麻酔成分	プロメタジンテオクル酸塩	外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
	抗コリン薬	アミノ安息香酸エチル	胃粘膜を麻酔して嘔吐刺激を和らげる。胃薬にも。メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児は使用不可
	抗コリン薬	スコポラミン臭化水素酸塩水和物	脳の自律神経系に働きかけ、混乱を抑える。末梢では胃の過剰な動きを止める。
中枢神経興奮薬 (キサンチン誘導体)	無水カフェイン	酔い止めの眠気防止のために入っているのではないので注意。	
	ジプロピリン	甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人は相談すること。心臓刺激作用あり、副作用として動悸。	

第3章  
資料1 成分名一覧

成分名一覧 内服薬（胃腸薬その他）

胃腸薬	制酸成分	合成ヒドロタルサイト ※アルミニウム配合	ヒドロタルサイト（ハイドロタル石）= AlとMgの化合物。Al脳症、Al骨症の恐れ。透析を受けている人は使用不可
		酸化マグネシウム	瀉下剤にも使用される。下痢に注意。
		炭酸マグネシウム	
		炭酸水素ナトリウム	重曹
		メタケイ酸アルミン酸マグネシウム ※アルミニウム配合	胃内でケイ酸がシリカゲルになり、胃粘膜に被膜を形成して保護する。また、Alを含む成分は透析中の人は避ける。長期間服用でAl脳症、Al骨症の恐れ。腎機能低下でAlを排出できないため。※ケイ素：シリコンのこと
	健胃薬	リン酸水素カルシウム	
		オウバク、オウレン、センブリ、ゲンチアナ ケイチ、ショウキョウ、チョウジ、ソウジュツ、ウイキョウ、コウボク	苦味による健胃作用 香りによる健胃作用
	消化薬	ジアスターゼ	
		タカジアスターゼ	
		ピオジアスターゼ	
		リパーゼ	
		プロザイム	酵素 = エンザイム
	胃粘膜保護、修復成分	ウルソデキシコール酸	利胆作用（胆汁分泌を促す作用）で消化を助ける。コールとはギリシャ語で胆汁のこと。ちなみにコレステロールは胆汁酸の原料で「コレ」は「コール」と同じく胆のことを指す。胎児毒性の恐れあり、妊婦は要相談。
		アズレンスルホン酸ナトリウム	
		アルジオキサ ※アルミニウム配合	アラントインと水酸化アルミニウム（ヒドロキシャルミニウム）の複合体。胃の中でアラントインは組織修復を、アルミニウムは胃酸中和をする。透析を受けている人は使用を避ける。
		ゲファルナート	
		スクラルファート ※アルミニウム配合	スクロース（ショ糖）とサルフェート（硫酸アルミニウムのこと）の複合体。
		セトラキサート塩酸塩	代謝されてトナネキサム酸になるので血栓のある人は注意。トナネキサム酸は止血 & 粘膜の抗炎症作用あり。
		テプレノン	まれに重篤な副作用として肝機能障害がある。
		銅クロロフィリン酸カリウム	クロロフィル = 葉緑素
		メチルメチオニンスルホニウムクロライド	略してMMSC、キャベツの搾り汁から見つかった成分。キャベジンに配合。
		胃腸鎮痛鎮痙薬	プチルスコポラミン臭化物
	ロートエキス		抗コリン薬で、下痢止めにもよく含まれる。乳児の頻脈、母乳が出にくくなるおそれあり。
	パバペリン		平滑筋に直接作用。胃液分泌抑制作用×。抗コリン成分と異なるが副作用として眼圧上昇。現在市販薬では使われている商品はないと思われるがなぜか頻出。
	局所麻酔成分	アミノ安息香酸エチル	消化管粘膜への局所麻酔作用により胃痛に使用。メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児は使用不可
		オキシセザイン	消化管粘膜への局所麻酔作用により胃痛に使用。
	胃液分泌抑制剤	ピレンゼピン塩酸塩	抗コリン薬でM1ブロッカーとも言われる。消化管運動には影響を与えずに胃液分泌を抑える。
消泡作用	ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）	シリコンのこと。消化管内容物中に発生した気泡の分離を促す。	
整腸作用	アシドフィルス菌		
	乳酸菌		
	ビフィズス菌		
	ラクトミン	ラクト：「乳の」という意味	
整腸作用（生薬）	ケツメイシ	決明子「目を開く種子」の意。	
	ゲンノショウコ	現の証拠「胃腸にすぐ効く」の意。	

第3章  
資料1 成分名一覧

下痢止め ※すべてが止瀉作用をもつわけではなく、止瀉剤に入っている成分全般を記載	腸管運動抑制作用	ロペラミド塩酸塩	感染性の下痢×。オピオイド受容体刺激薬。乳幼児への使用で麻痺性イレウスを起こした事例あり、15歳未満使用不可。中枢神経抑制によりめまいや眠気の副作用あり。
	収斂作用	タンニン酸アルブミン	感染性の下痢×。アルブミンは牛乳たんぱくから作られるので、牛乳アレルギーの人は使わない。
		次没食子酸ピスマス	感染性の下痢×。精神症状が出る可能性があるため、1週間以上使用しない。アルコールとの併用で副作用リスク増大。妊婦は使用を避ける。
		次硝酸ピスマス	
	腸内殺菌剤	タンニン酸ベルベリン	オウバク、オウレンに含まれ、抗菌作用と抗炎症作用がある。
		ベルベリン塩化物	
アクリノール			
吸着成分	木クレオソート	黄色色素成分。	
	炭酸カルシウム	腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させる。	
	沈降炭酸カルシウム		
乳酸カルシウム			
便秘薬 瀉下剤	小腸刺激成分	ヒマシ油	腸内要物の急速な排除のために使用。脂溶性成分（殺鼠剤、防虫剤）の誤飲には使用×。激しい腹痛、悪心・嘔吐のある人、3歳未満、妊婦使用×
	大腸刺激成分	センナ	妊婦要相談、授乳婦は使用しない、または授乳を避ける。
		センノシド	妊婦要相談、授乳婦は使用しない、または授乳を避ける。腸内細菌によって分解され効き目を示す。
		ダイオウ	妊婦要相談、授乳婦は使用しない、または授乳を避ける。成分中にセンノシドを含む。
		ピコスルファートナトリウム水和物	妊婦要相談。腸内細菌によって分解され効き目を示す
	無機塩類	ピサコジル	妊婦要相談、腸溶錠の場合もある→コーティングが溶ける恐れがあるので、服用後1時間は制酸剤を含む胃腸薬、牛乳の摂取は控える
		酸化マグネシウム	浸透圧により、便に水分を加えてやわらかくする。
		硫酸マグネシウム	
	膨潤性瀉下成分	ブランタゴ・オバタ	車前草のことで、オオバコ科の植物。たくさん水と服用する。
浸潤性下剤	ジオクチルソジウムスルホサクシネート（DSS）	腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくする。	
その他	マルツエキス	麦芽糖＝マルトースを60%以上含み、麦芽糖が腸内細菌で分解（発酵）し生じるガスにより便通を促進。乳幼児の便秘に使用。	
浣腸	大腸刺激成分	グリセリン	排便時に血圧低下の恐れ→高齢者、心臓病の人など注意。痔の人は、グリセリンが傷から入り赤血球破壊（溶血）、腎不全の恐れがあるので注意。

第3章  
資料1 成分名一覧

成分名一覧 目薬

目薬	ピント調節成分	ネオスチグミンメチル硫酸塩	コリンエステラーゼ阻害剤。アセチルコリンを増やして毛様体筋を収縮させる
	交感神経刺激薬	テトラヒドロソリン塩酸塩	緑内障要相談
		ナファソリン塩酸塩	
	抗炎症成分	イブシロアミノカプロン酸	炎症の原因となるプラスミンの産生を抑える働きがある、人工アミノ酸
		塩化リゾチーム	
		グリチルリチン酸二カリウム	
	組織修復成分	プラザプロフェン	プロピオン酸系解熱鎮痛剤。OTC医薬品では内服では使われない。
		アズレンスルホン酸ナトリウム	
	保湿剤	アラントイン	
		コンドロイチン硫酸ナトリウム	
	抗ヒスタミン成分	ヒドロキシプロピルメチルセルロース	
		クロルフェニラミンマレイン酸塩	
		ジフェンヒドラミン塩酸塩	
	抗アレルギー成分	ケトチフェンマレイン酸塩	
		クロモグリク酸ナトリウム	
	抗菌剤	アシタザナラスト水和物	2016年11月より2類へ
	無機塩類	スルファメトキサゾール	サルファ剤
塩化カリウム、塩化カルシウム、硫酸マグネシウム、リン酸水素ナトリウム、リン酸二水素カリウム			
ビタミンA	パルミチン酸レチノール、酢酸レチノール	目の機能維持	
ビタミンB2	フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	目の組織呼吸の亢進	
ビタミンB6	ピリドキシン塩酸塩	アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関わる	
ビタミンB12	シヤノコバラミン	目の調節機能を助ける。コバルトにシアン基のついた赤色の液体。	
パンテノール	ビタミンB5	目の調節機能の回復	
ビタミンE	トコフェロール酢酸エステル	血行促進	
アミノ酸	アスパラギン酸K、アスパラギン酸Mg	新陳代謝を上げる。アスパラガスから発見されたうまみ成分	

成分名一覧 外皮用薬

皮膚用薬 全般	抗ヒスタミン剤	ジフェンヒドラミン	
	かゆみ止め成分	クロルフェニラミンマレイン酸	皮膚に軽い灼熱感を与えることで痒みを感じにくくさせる
		クロタミン	
	局所麻酔成分	アミノ安息香酸エチル	
		リドカイン	
		ジブカイン塩酸塩	
	抗炎症成分	ウフェナマート	炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられている
血行促進成分	ヘパリン類似物質	ヒルドイド、アットノン	
収斂成分	酸化亜鉛	患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する。患部が浸潤または化膿している場合、傷が深いときは、表面だけを乾燥させて悪化させるおそれがあるため使用しない。	

第3章  
資料1 成分名一覧

皮膚用薬 全般	角質軟化成分	サリチル酸 イオウ	角質成分を溶解する 皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させる	
	保湿成分	グリセリン、尿素、白色ワセリン、オリーブ油、ヘパリン類似物質等	角質層の水分保持量を高める	
皮膚用薬 抗菌薬	サルファ剤	スルファジアジン		
	DNA合成阻害剤	ホモスルファミン		
	細胞壁合成阻害剤	バシトラシン		
	蛋白質合成阻害剤	クロラムフェニコール 硫酸フラジオマイシン		
皮膚用薬 ステロイド性抗炎症薬	ストロング	デキサメタゾン吉草酸エステル	<ul style="list-style-type: none"> <li>末梢組織の免疫機能低下。水痘、水虫、たむし、化膿した患部には使用不可。</li> <li>コルチゾンに換算して1gまたは1mL中0.025mgを超えて含有する製品では特に長期連用を避けるとなっている。</li> </ul>	
		プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル 吉草酸ベタメタゾン		
		酪酸ヒドロコルチゾン デキサメタゾン		
	ミディアム	プレドニゾン酢酸エステル		
		ヒドロコルチゾン		
		酢酸プレドニゾン		
ウィーク	オキシコナゾール硝酸塩 ビホナゾール塩酸塩 ミコナゾール硝酸塩	糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる		
	シクロピロックスオラミン	糸状菌の細胞膜に作用して、菌の増殖に必要な物質の輸送を妨げる。シクロピロックスのエタノールアミン（オラミン）塩。		
皮膚用薬 水虫薬 ジクジク：クリーム、軟膏 カサカサ（角質化）：液体	第二世代	アモルフィン塩酸塩 ブテナフィン塩酸塩 テルピナフィン塩酸塩	糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げる ※第三世代にかゆみ止め成分が入ったものが第四世代	
		第三世代	ピロールニトリン	菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。クロトリマゾールとの合剤で使われる。
			ウンデシレン酸	患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。実在する市販薬があるかどうかは不明。
	その他	インドメタシン	喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。	
外用消炎鎮痛薬	消炎鎮痛成分	ジクロフェナクナトリウム	喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。	
		ケトプロフェン	喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。光線過敏症に注意。オキシベンゾン、オクトクレリン（紫外線吸収剤）などの物質でアレルギーが出た人は使わない。	
		ピロキシカム	喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。光線過敏症に注意。	
		フェルピナク	喘息の人注意。塗り薬やエアゾールは1週間に50mL以上使用しない。	
		サリチル酸グリコール	アセチルサリチル酸の類似成分。サロンパスの匂いの元となる成分。	
		サリチル酸メチル		

第3章  
資料1 成分名一覧

成分名一覧 その他

殺虫剤・忌避剤	有機リン系	ジクロロボス	アセチルコリン分解酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と <b>不可逆的</b> に結合して働きを阻害する。 ウジの防除法としては、通常有機リン系殺虫剤が用いられる。 その他：ダイアジノン、フェントロチオン、フェンチオン、トリクロロホン、クロルピリホスメチル、プロパタンホス
	カーバメイト系	プロボクスル	アセチルコリン分解酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と <b>可逆的</b> に結合して働きを阻害する。
	オキサジアゾール系	メトキサジアゾン	
	有機塩素系（DDT等）	オルトジクロロベンゼン	神経伝達阻害。現在、 <b>有機塩素系の中では、これのみがウジ・ボウフラの防除の目的で使用されている。</b>
	ピレスロイド系	ペルメトリン、フェントリン、フタルスリン	神経伝達阻害。除虫菊の成分から開発された成分。フェントリンは殺虫成分で唯一 <b>人体に直接適用</b> される。
	昆虫成長阻害成分	メトプレン、ピリプロキシフェン	幼虫がさなぎになるホルモンを抑制するホルモンに似た作用がある。さなぎにならずに成虫になる昆虫、ダニには無効。
駆虫成分	回虫駆除	サントニン	回虫の <b>自発運動抑制</b> 。主に肝代謝されるので肝臓病の人は要相談。副作用：一時的に物が <b>黄色く</b> 見える、口渇、耳鳴りなど。
		カイニン酸、マクリ	回虫に <b>痙攣</b> を起させる。カイニン酸はマクリ（フジマツモ科マクリの全葉で海人草とも呼ばれる）から抽出される。
	回虫・蟯虫駆除	ピペラジンリン酸塩	回虫・蟯虫の <b>アセチルコリン伝達阻害による運動筋麻痺</b> 作用。副作用：痙攣、倦怠感、眠気、食欲不振、下痢、便秘
高コレステロール改善薬	高コレステロール改善成分	バモ酸ピルピニウム	蟯虫の <b>呼吸や栄養分の代謝を抑える</b> 。ヒマシ油、脂肪の多い食事、アルコールとの併用避ける。尿・便が <b>赤く</b> なることがある。
		大豆油不飽和化物（ソイステロール）	<b>腸管のコレステロール吸収を防ぐ。</b>
		リノール酸	コレステロールと結合して代謝されやすいコレステロールエステルを形成、 <b>肝臓でのコレステロール代謝を促す。</b>
	ビタミン成分	ポリエンホスファチジルコリン	<b>LDL等の異化排泄促進</b> 、リポタンパクリパーゼの活性を高めて <b>HDL産生を高める。</b>
		パンテチン	
貧血用薬	鉄	ビタミンB2（リボフラビン酪酸エステル）	脂質代謝に関与。コレステロールの生成抑制。
		ビタミンE（トコフェロール酢酸エステル）	コレステロールから過酸化脂質の生成抑制。末梢血流促進。
	その他の金属	フマル酸第一鉄	消化器系の副作用あり。便が <b>黒く</b> なることがある。
		溶性ピロリン酸第二鉄	ヘモグロビンの産生過程で、 <b>鉄の代謝や輸送</b> に重要な役割を持つ。
循環器用薬	西洋薬	銅	ビタミンB12の構成成分。ビタミンB12は <b>赤血球産生</b> に関与する。造血機能を高める。
		コバルト	三大栄養素の代謝に関与する酵素の構成物質。エネルギー合成促進。
		マンガン	消化管内で鉄が吸収されやすい形（ヘム鉄）に保っている。
	生薬	ビタミンC	肝臓や心臓などに多く存在し、 <b>エネルギー代謝</b> に関与する酵素の働きを助ける。「デカ」はギリシャ語で10のこと。ビタミンB群と一緒に使われることがある。
		コビデカレノン（コエンザイムQ10）	<b>ニコチン酸遊離</b> による血液循環促進。ビタミンEと組み合わせられて使われることが多い。
滋養強壮保健薬	アミノ酸成分	ヘプロニコカート	高血圧等における <b>毛細血管の補強</b> 。ビタミン様物質。
		イノシトールヘキサニコチネート	紅花。キク科ペコバナの管状花を使用。
		ルチン	肝臓でアルコール分解酵素の働きを助ける。髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種。メラニン生成抑制作用もある。
	その他	アミノエチルスルホン酸（タウリン）	全身に存在しており、細胞機能保持、 <b>肝機能改善</b> 。
		アスパラギン酸ナトリウム	エネルギー産生効率を高め、骨格筋の疲労物質、 <b>乳酸分解</b> を促す。
		ハスベリジン	<b>VCの吸収</b> を助ける。
その他	コンドロイチン硫酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸は、軟骨組織の主成分。関節痛、筋肉痛等の改善。	
	グルクロノラクトン	肝臓の働きを助ける。	
		ガンマーオリザノール	米油、米胚芽油から見出された成分で、抗酸化作用を示す。VEと組み合わせられることもある。

### 第3章

#### 資料2 生薬一覧(覚え方)

かぜ症状に使う生薬（解熱鎮痛薬、咳止め、鼻炎薬、うがい薬）と小児鎮静薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
1	解熱鎮痛薬	<b>ボウイ/防己</b>		ボウイ（ボーイ：男の子）＝小便小僧のイメージ メインの作用は水を取る作用→利尿作用、関節痛改善（ひざの水を取る）
2	解熱鎮痛薬、風邪薬	<b>カクコン/葛根</b>	葛（クズ）の根。	葛湯（くずゆ）→熱さまし 葛湯は昔から風邪の時に解表薬として使用されている ※解表薬：発汗させて熱を下げる薬
3		<b>ショウマ/升麻</b>	升：「昇る」の意。下垂した内臓を活性化し上げる。 麻：麻の葉に似ていることから。	気を上げて発散→解表薬
4		<b>ジリュウ/地竜</b>	地の竜＝ミミズ	みみず→ひんやりしているイメージ→解熱剤
5		<b>ボウフウ/防風</b>	「風邪を防ぐ」の意。	その名の通り、解表薬。
6	解熱鎮痛薬、痔薬 （内用）	<b>サイコ/柴胡</b>	柴：根が紫色（昔は柴ではなく紫という字だった） 胡：西方の異民族を指す。例）胡椒、胡桃	炎症を起こして紫色になった患部に使うイメージ→抗炎症剤
7	解熱鎮痛薬、婦人薬、胃腸鎮痛鎮痙剤	<b>シャクヤク/芍薬</b>		美人を形容する「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」という言葉は元々生薬の働きを表している。 芍薬：気が立ってカッカしている女性の痛みや筋肉のこわばりを取る。
8	解熱鎮痛薬、婦人薬、内用痔薬	<b>ボタンピ/牡丹皮</b>		牡丹皮：お血が原因でペタンと座ってばかりいるような女性の諸症状を改善する。
9	催眠鎮静薬	<b>カノコソウ/鹿子草</b>	花の蕾を上から見ると、染め物の「鹿の子絞り」に似ていることから。	鹿＝おとなしいイメージ＝鎮静剤
10		<b>サンソウニン/酸棗仁</b>	酸っぱいなつめ（棗）の種子（仁） サネト（核太） ナツメ：果実の核が大きいという意味	酸味→緊張緩和 大棗[70]はナツメの果実、酸棗仁 [10] はサネトナツメの種子である。
11		<b>チャボトケイソウ</b>	花が時計に似ていることから。	時計→体内時計→鎮静、催眠作用 別名パッションフラワー、パッシフローラ。O T C 医薬品のイララックやパンセダンなどに含まれる。
12		<b>チョウトウコウ/釣藤鈎</b>	フック（カギまたは鈎）状のとげがあることから。	とげ→痛みや気持ちをとげで制する→鎮痛剤
13		<b>ホップ</b>		ビールの香りづけのために使われる。
14	小児鎮静薬、強心薬	<b>ジャコウ/麝香</b>	麝の字は鹿と射を組み合わせたもの。	鹿＝おとなしいイメージ＝鎮静作用 ジャコウ＝ムスク：シャネルNo.5の香り。
15		<b>ジンコウ/沈香</b>	生薬として使われる樹脂が水より重くて沈むことから。	沈むイメージ＝鎮静作用 科名のジンチョウゲは漢字で沈丁花と書くので合わせて覚えよう。
16		<b>レイヨウカク/羚羊角</b>	サイカレイヨウという動物の角。	羚羊（ウシ科の動物）→おとなしいイメージ→鎮静剤
17	強心薬	<b>リュウノウ/竜腦</b>	昔は金と同じぐらいの価値のあった、香り高い生薬。	竜の脳→脳がすごい働きそなイメージ→中枢神経興奮作用、消炎、鎮痛 唯一「気付け」の適応がある。
18	小児鎮静薬、強心薬、滋養強壮保健薬	<b>ゴオウ/牛黄</b>	牛黄：牛の胆石が黄色いことから。	胆石→石や貝(Ca)→ずっしりしている→鎮静作用 例）牡蛎[39]、真珠[61]
19	風邪薬、鎮咳去痰、鼻炎薬	<b>マオウ/麻黄</b>	麻：食べると舌が麻痺することから。 黄：マオウが黄緑色のため。	麻黄（エフェドリン）は覚醒剤原料となる→交感神経興奮薬

第3章  
資料2 生薬一覧(覚え方)

20	風邪薬、鎮咳去痰、鼻炎薬、胃腸薬、甘味料	<b>カンゾウ/甘草</b>	甘草：嘔むと甘いことから。別名リコリス、グリチルリチン。	甘草→肝臓→肝機能を高める→抗炎症剤
21	鎮咳去痰薬	<b>オンジ/遠志</b>	「志を遠大にする（強くする）」の意。	意識をはっきりさせる→去痰薬、記憶力改善薬
22		<b>セネガ/美遠志（中国語）</b>	北米原住民のSeneka族から。美：中国語でアメリカの意。	インディアンのSeneka族が毒へにかまれた時に救急的に使用しており、その後去痰作用があることが判明。主成分はサポニン。
23		<b>オウヒ/桜皮</b>	桜の木の皮。	
24		<b>シャゼンソウ/車前草</b>	牛車や馬車が通る道ばたに多く生えていることから。	負傷兵が逃走中に、馬と共に血尿になった。数日後馬だけ回復し、馬の周りの草がなくなっていた。この出来事で車前草に利尿作用があることが判明した。「去痰や利尿など不要物を外に出す作用がある」と覚える。
25		<b>セキサソ/石蒜</b>	石蒜はヒガンバナの別名。	セキサソの「セキ」→咳→去痰作用
26		<b>キキョウ/桔梗</b>	「根が結実して硬い」の意。	サポニンが含まれ、鎮咳去痰薬として使われる。トローチ剤に含まれていることもある。
27		<b>キョウニン/杏仁</b>	あんず（杏子）の種子（仁）。	鎮咳作用があるが、多量服用で青酸配糖体のアミグダリン（バラ科の種子に含まれる）が胃液と反応し呼吸困難となる。
28		<b>ナンテンジツ/南天実</b>		南天のど飴の名前の由来となった生薬。
29		<b>バクモンドウ/麦門冬</b>		冬は乾燥している→乾いた咳に使用 のどを潤し粘稠な痰を出しやすくする。
30		<b>ハンゲ/半夏</b>	夏の半ばに花が咲く（その頃に採取する）ことから。	俗にいう「いも」の部分（塊茎）を生薬とする。
31	鎮咳去痰薬、滋養強壮保健薬	<b>ゴミシ/五味子</b>	果実に「酸、甘、苦、辛、鹹」の五味があることから。ただし主体は酸味。	酸味には収斂作用がある。収斂作用＝血管収縮作用（炎症を取り咳をしずめる、鼻水を止めるなど）
32	鼻炎用内服薬	<b>ケイガイ/荊芥</b>	荊：とげの意。 芥：辛い意。カラシを漢字で芥子とも書く。	辛温解表薬。紫蘇の葉に似た香りがあり、薬効も紫蘇や生姜と同じである。 ※辛温解表薬：体を温めて汗をかき熱を発散する薬。
33		<b>サイシン/細辛</b>	細いひげ根を嘔むと辛いことから。	辛温解表薬。「辛」の字のごとく、体をあたためることで頭痛や鼻炎を改善する。
34		<b>シンイ/辛夷</b>	辛：実をかむと辛いことから。 夷：「外国」の意。	辛温解表薬。「辛」の字のごとく、体をあたためることで頭痛や鼻炎を改善する。
35	鼻炎用内服薬、風邪薬	<b>ベラドンナ</b>	ベラ：美しい（妖怪人間ベムに出てくる「ベラ」） ドンナ：淑女（マ・ドンナ：我が淑女の意）	イタリアルネサンス期に女性がベラドンナの汁を点眼して目を美しく（大きく）見せたため、この名が付いた（抗コリン作用による散瞳）。
36	うがい薬、健胃薬	<b>ウイキョウ/茴香</b>	魚肉の「香り」を「回復」させるといふ意味の中国語名より。	別名フェネル。清涼感があるのでうがい薬、香りが強いので芳香性健胃薬としても使われる。
37	うがい薬、歯槽膿漏薬	<b>カミツレ</b>	カモミールのドイツ語読み（カミルレ）より。	カマズレン（カモミール+アズレン）が主成分で、アズレンと同じく抗炎症作用を持つ。
38		<b>ミルラ</b>	昔ミイラ作りの遺体の防腐処理のためにミルラ樹脂が使用されており、ミイラの語源はミルラから来ているという説がある。	収斂作用（抗炎症作用）と抗菌（防腐）作用があり、口腔・咽頭症状に使われる。
39		<b>ラタニア</b>		タンニンを多く含み、収斂作用（抗炎症作用）と抗菌作用があり、口腔・咽頭症状に使われる。

### 第3章 資料2 生薬一覧(覚え方)

#### 胃腸症状に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
40	胃腸薬、制酸剤	<b>ボレイ/牡蠣</b>	カキ(牡蠣)の音読み。	制酸剤。炭酸カルシウムが成分の80~95%を占める。鎮静作用もある。→【参考】牛黄[18]
41	苦味健胃薬 ※味覚(苦味)により反射的に唾液分泌や胃液分泌を促すため、オブラート使用不可	<b>オウバク/黄柏</b>	内皮部が黄色いため。科名の黄肌・木肌(キハダ)もそのままの意味。	黄色はベルベリン(苦味健胃薬)の色が由来。
42		<b>オウレン/黄连</b>	「黄」色い根茎が節状に「連」なることから。	この3種の苦味健胃薬はすべてリンドウ科の植物。
43		<b>ゲンチアナ</b>	紀元前500年頃のゲンチアナ王が使ったことから。	
44		<b>センブリ/千振</b>	「千回振り出しても(煎じても)まだ苦い」ことから。	
45		<b>リュウタン/竜胆</b>	「竜の胆のように根が苦い」。「リンドウ」はリュウタンの読みが変化したもの。	
46		<b>ユウタン/熊胆</b>	熊の胆汁の略。苦い。	
47	芳香性健胃薬 ※嗅覚(芳香)により反射的に唾液分泌や胃液分泌を促すためオブラート使用不可	<b>ケイヒ/桂皮</b>		シナモンのこと。独特な芳香がある。
48		<b>コウボク/厚朴</b>	ホウノキの名の由来:ホウは「包」で餅を香りのよい葉で包むことから	
49		<b>ショウキョウ/生姜</b>	生姜の音読み。	辛温解表薬。
50		<b>ソウジュツ/蒼朮</b>	朮:「オケラ」の意。根は黒く、青ではない。中国では白朮よりよく使われる。	補気薬。朮には蒼朮と[52]白朮がある。
51		<b>チョウジ/丁香</b>	丁は「釘」という意味。蕾の形が釘に似ていることから。英名はクローブで、仏語で釘はclouと言い、その語源となっている。	釘→刺激→香辛料(芳香性健胃薬)、痛みを釘で制す(鎮痛作用)。カレーやチャイなどの香辛料としても使われる。
52		<b>チンピ/陳皮</b>	陳:「古い」の意。陳旧なものが品質が良いということから。	みかんの皮を干したのもの。みかんの良い香りがする生薬。
53		<b>ビャクジュツ/白朮</b>	朮:「オケラ」の意。根が白い。日本では蒼朮よりよく使われる。	補気薬。京都の八坂神社で元旦に執り行われる「白朮祭(おけらさい)」は有名。祭では薬草のオケラをたいて邪気を払う。
54	瀉下剤	<b>アロエ</b>		ヨーグルトにも使われていることから分かるように、穏やかに便秘を解消する。
55		<b>ケンゴシ/牽牛子</b>	この高価な「種子」を手に入れるために「牛」を「牽(ひ)」いていき謝礼にしたことから。	アサガオの種→コロコロ便に形状が似ている→便秘薬
56		<b>センナ</b>		センノシドはセンナに含まれる瀉下成分。
57	便秘薬、婦人薬	<b>ダイオウ/大黃</b>	「形が大きく黄色い根茎を持つ」という意味だと言われている。	大きい黄色→便→便秘薬
58	整腸剤	<b>ケツメイシ/決明子</b>	「目に明かりを与える種子」の意。	ミュージシャンのケツメイシは、「全てを出し切る」ということでこの名をつけたと言われている(後付けとも...)。整腸の他、目の症状にも使用。
59		<b>ゲンノショウコ/現証拋</b>	現に証拋がある=どんな下痢にもすぐに効果がある、の意。	

#### 外皮用の生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
60	外皮用薬	<b>アルニカ</b>		育毛剤によく含まれる。
61	外皮用薬、歯痛用薬	<b>サンシシ/山梔子</b>	梔子は訓読みでクチナシと読む。基原植物のクチナシ(口無し)は、果実が熟しても裂開しないことから。	口無し→傷無し→抗炎症作用、鎮痛作用

### 第3章

#### 資料2 生薬一覧(覚え方)

##### 循環器系症状に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
62	強心薬	<b>シンジュ/真珠</b>		石や貝(Ca)→ずっしりしている→鎮静作用 体の熱を取る(鎮痛、鎮静)と言われる。【参考】牛黄[18]
63		<b>センソ/蟾酥</b>	虫偏の蟾という字は「ヒキガエル」という漢字。	いわゆるガマの油。ムツゴロウさん曰く、観察中のカエルの油をなめたところ、体がしゃんとして元気になったが、後日これに強心作用があることを知ったというエピソードがある。
64		<b>ブシ/附子</b>	毒に使うときは「ぶす」、生薬の時は「ぶし」。顔面の神経麻痺のため、ブスの語源となったと言われる。	心収縮力を上げる。トリカブト保険金殺人事件の原因植物。減毒して使用しないと心不全により死に至ることもある。
65	強心薬、滋養強壮保健薬	<b>ロクジョウ/鹿茸</b>	鹿の角(=茸)の意。	若い鹿の角→男性器のイメージ→強壮・強精薬
66	循環器用薬	<b>コウカ/紅花</b>	花穂が赤いため。	紅花は赤い→血に似ている→血流改善

##### 滋養強壮に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
67	滋養強壮保健薬	<b>オウギ/黄耆</b>	耆:「老人」の「日」と書いて、「長(おさ)」の意。黄色い補薬の長という意味。	黄色の長(リーダー)→パワフル→精力剤 中国では人參以上に人気のある、強壮目的で使われる生薬。
68		<b>サンシュユ/山茱萸</b>		
69		<b>サンヤク/山薬</b>	山で取れる薬(イモ)の意。	ヤマイモ(自然薯)やナガイモを乾燥させたもので、昔から強壮剤として使われてきた。
70		<b>タイソウ/大棗</b>	大きなナツメ(棗)。	【参考】酸棗仁[10]
71		<b>ハンピ/反鼻</b>	中国でハンピとして使われるヘビの鼻が反り返っているため(日本ではマムシが使われるので反っていない)。	蛇→マムシのイメージ→滋養強壮薬
72	滋養強壮保健薬、強心薬	<b>インヨウカク/淫羊藿</b>	「淫」らな「羊」の「葉」という意味。「藿」は豆類の若い葉のこと。	雄の羊がイカリ草を食べると1日に100回交尾する→精力剤
73	滋養強壮保健薬、解熱鎮痛薬	<b>ニンジン/人參</b>		
74	滋養強壮保健薬、瀉下剤	<b>ヨクイニン/薏苡仁</b>		別名:鳩麦→ポツポツできたいぼやコロコロ便に形が似ている→いぼ、便秘などに使用 体内の水分調節をする生薬で関節痛やむくみなどにも使用。

##### 痔に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
75	痔用薬(内外用)	<b>セイヨウトチノミ</b>		デンプンとサポニンやタンニンが含まれる。
76	痔用薬(内用)	<b>カイカ/槐花</b>	槐:エンジュと読む。「エンジュの花」の意。	槐は「木」に「鬼」と書く→魔よけの木→止血効果→長生き(延寿)
77	痔用薬(内用)	<b>カイカク/槐角</b>	槐:エンジュと読む。「エンジュの果実」の意。	まれに「延寿(えんじゆ)」の文字があてられる。
78	痔用薬(内)、健胃薬	<b>オウゴン/黄芩</b>	根の断面が黄色であることから。黄金=コガネバナと覚える。	
79	痔、口内炎用薬(外)	<b>シコン/紫根</b>	根が紫色であることから。	炎症を起こして紫色になった患部に使うイメージ→抗炎症剤 ムラサキ科はラテン語で「ボラジネシア」と言い、ボラギノールという痔の薬の名の由来である。

### 第3章

#### 資料2 生薬一覧(覚え方)

##### 泌尿器系の生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
80	泌尿器用薬	<b>ウワウルシ</b>	uva = ウワ : ぶどう (コケモモ) ursi = ウルシ : 熊 ラテン語	
81		<b>カゴソウ/夏枯草</b>	夏になると花穂だけが枯れたようになることから。	夏→涼しくする→利尿作用 中国南方では、暑い夏に暑気払いとして定番の涼茶に入れる薬草のひとつ。
82		<b>キササゲ</b>	野菜のササゲに似た長さ30cm程の果実を付けることから。	
83		<b>サンキライ/山帰来</b>	重篤な梅毒の患者は「山」に捨てられたが、これを飲んで治って「帰って来た」という言い伝えから。	梅毒患者が山から帰って来る→利尿効果による解毒作用 昔は性病である梅毒の治療に使われていた。
84		<b>ソウハクヒ/桑白皮</b>	「桑の木の根の白い皮」の意。	利尿・去痰作用で知られる。桑の実はマルベリーと呼ばれる。
85		<b>モクツウ/木通</b>	蔓(つる)を切って息を吹くと空気が通ることから。	木がストロー状になっている→(気・血・)水が通りやすくなる→利尿作用 アケビは果実が開裂する「開け実」から。「開く=通りやすくなる」イメージ。
86	泌尿器用薬、婦人薬	<b>ブクリョウ/茯苓</b>	苓：ぼとぼと落ちるの意	ぼとぼと落ちる→利尿作用 きのこの一種。

##### 婦人科系の生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
87	婦人薬、強心薬、小児鎮静薬	<b>サフラン</b>	「黄色」を意味するアラビア語のzafranより。	サフランライスに使われる黄色色素。婦人病に使われる。
88	婦人薬、解熱鎮痛薬、風邪薬	<b>コウブシ/香附子</b>	塊茎の形が生薬の附子に似て、香りがあることから。	ハマスゲは全世界どこにでも生え、最も有害な雑草との汚名もある。女性のための生薬の代表格で、神経症(ヒステリー)などに使われる。
89	婦人薬、解熱鎮痛薬、風邪薬、滋養強壮保健薬	<b>センキュウ/川芎</b>	川：四川の川。 芎：葉柄が弓状に曲がっていることから。	すべて補血薬で、女性用漢方によく使われる生薬。補血剤の基本方剤である「四物湯」は、センキュウ、ジオウ、トウキの3つにシャクヤクを足したもの。
90	婦人薬、滋養強壮保健薬	<b>ジオウ/地黄</b>	「黄色く肥大した根」の意。起源植物、赤矢地黄は、花の形が矢に似ていることから。	・千芎：川の流れるように血流促進。 ・地黄：赤い矢のように血流促進。
91	婦人薬、痔用薬(内用)、滋養強壮保健薬	<b>トウキ/当帰</b>	好きな男の人が「当(まさ)」に「帰る」の意。婦人が飲むと健康になり美しくなることから。	・当帰：血色が良くなって美しくなり、好きな人が帰ってくる。

##### その他の生薬

No.	薬効群	生薬名	生薬名の由来	覚え方
92	毛髪用薬(外用)、解熱鎮痛薬	<b>チクセツニンジン/竹節人参</b>	竹節：根茎に竹のような節があることから。 人参：根茎がニンジンのようにブククリしていることから。	
93	毛髪用薬(外用)	<b>カシュウ/何首烏</b>	「何」さんが飲んで「首」から上が「烏」のようになったことから。	脂質代謝を改善する作用がある。
94	毛髪用薬、歯槽膿漏薬(外用)	<b>ヒノキチオール</b>		～オールの語尾は、殺菌・消毒作用を持つものが多い。例) エタノール
95	その他	<b>サンザシ/山査子</b>		さくらんぼのような赤い実。消化酵素を含み、健胃薬として使われる。山査子酒が有名。
96		<b>セッコウ/石膏</b>		石→ひんやりしている→体を冷やすための清熱剤
97		<b>レンギョウ/連翹</b>	黄色い花をびっしりと付けて咲くところから。	びっしり連なる実→菌のイメージ→抗菌作用、鎮痛(抗炎症)作用

### 第3章 資料3 生薬一覧(詳細)

かぜ症状に使う生薬（解熱鎮痛薬、咳止め、鼻炎薬、うがい薬）と小児鎮静薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
1	解熱鎮痛薬	<b>ポウイ/防己</b>	ツツラフジ科	オオツツラフジ	蔓性の茎及び根茎	利尿作用、局方収載のポウイ（煎薬）は筋肉痛、神経痛、関節痛に使用
2	解熱鎮痛薬、風邪薬	<b>カクコン/葛根</b>	マメ科	クズ	周皮を除いた根	解熱作用、鎮痙作用
3		<b>ショウマ/升麻</b>	キンポウゲ科	サラシナショウマ、フブキショウマ、コライショウマ、オオミツバショウマ	根茎	発汗、解熱作用、消炎作用、解毒
4		<b>ジリュウ/地竜</b>	フトミズ科	<i>Pheretima aspergillum</i> Perrier	内部を除いたもの	熱さまし、感冒時の解熱
5		<b>ポウフウ/防風</b>	セリ科	ポウフウ	根、根茎	発汗作用、解熱作用、鎮痛鎮痙
6	解熱鎮痛薬、痔用薬（内用）	<b>サイコ/柴胡</b>	セリ科	ミシマサイコ	根	抗炎症作用、解熱作用、鎮痛作用
7	解熱鎮痛薬、婦人薬、胃腸鎮痛鎮痙剤	<b>シャクヤク/芍薬</b>	ボタン科	シャクヤク	根	鎮痛鎮痙作用
8	解熱鎮痛薬、婦人薬、内用痔用薬	<b>ボタンピ/牡丹皮</b>	ボタン科	ボタン	根皮	鎮痛鎮痙、鎮静作用
9	催眠鎮静薬	<b>カノコソウ/鹿子草</b>	オミエナシ科	カノコソウ	根茎、根	神経興奮抑制、緊張緩和、婦人薬、解熱鎮痛薬にも使用
10		<b>サンソウニン/酸棗仁</b>	クロウメモドキ科	サネブトナツメ	種子	
11		<b>チャボトケイソウ</b>	トケイソウ科		開花期の茎、葉	
12		<b>チョウトウコウ/釣藤鈎</b>	アカネ科	カギズラ、ウンカリア、シネンシス、ウンカリア・マクロフィラ	とげ	
13		<b>ホップ</b>	アサ科	ホップ	成熟球果状の果穂	
14	小児鎮静薬、強心薬	<b>ジャコウ/麝香</b>	シカ科	ジャコウジカのオス	麝香腺分泌物	緊張や興奮を鎮める、血液循環促進・強心作用、呼吸中枢刺激、意識をはっきりさせる
15		<b>ジンコウ/沈香</b>	ジンチョウゲ科	ジンコウ	辺材の材質中に黒色樹脂が沈着した部分	鎮静作用、健胃作用、強壮作用
16		<b>レイヨウカク/羚羊角</b>	ウシ科	サイカレイヨウ	角	緊張興奮緩和
17	強心薬	<b>リュウノウ/竜腦</b>	フタバガキ科	リュウノウジュ	樹脂	中枢神経興奮作用
18	小児鎮静薬、強心薬、滋養強壮保健薬	<b>ゴオウ/牛黄</b>	ウシ科	ウシ	胆嚢結石	緊張や興奮を鎮める、血液循環の促進、強心作用、血管拡張による降圧効果、解熱
19	風邪薬、鎮咳去痰、鼻炎薬	<b>マオウ/麻黄</b>	マオウ科	マオウ、チュウマオウ、エフェドラ・イクイセチナ	地上茎	交感神経刺激作用、依存性あり

第3章  
資料3 生薬一覧(詳細)

20	風邪薬、鎮咳去痰、鼻炎薬、 胃腸薬、甘味料	<b>カンゾウ/甘草</b>	マメ科	ウラルカンゾウ、グリキルリザ・グラ ブラ	根、ストロン、皮切りカンゾウの 場合あり	グリチルリチン酸がステロイド骨格に似ているため抗炎症作用あり。偽アルドステロン症 に注意、むくみのある人・高齢者・心臓病・腎臓病・高血圧の人は注意
21	鎮咳去痰薬	<b>オンジ/遠志</b>	ヒメハギ科	イトヒメハギ	根	去痰作用
22		<b>セネガ/美遠志</b>	ヒメハギ科	セネガ、ヒロハセネガ	根	
23		<b>オウヒ/桜皮</b>	バラ科	ヤマザクラ、その近縁植物	周皮を除いた樹皮	
24		<b>シャゼンソウ/車前草</b>	オオバコ科	オオバコ	花期の全草	去痰・利尿作用
25		<b>セキサン/石蒜</b>	ヒガンバナ科	ヒガンバナ	鱗茎	去痰作用
26		<b>キキョウ/桔梗</b>	キキョウ科	キキョウ	根	鎮咳去痰作用
27		<b>キョウニン/杏仁</b>	バラ科	ホンアンズ、アンズ	種子	代謝物の一部が延髄の呼吸中枢・咳嗽中枢を鎮静、鎮咳薬
28		<b>ナンテンジツ/南天実</b>	メギ科	シロミナンテン、ナンテン	果実	鎮咳作用
29		<b>バクモンドウ/麦門冬</b>	ユリ科	ジャノヒゲ	根の膨大部	鎮咳去痰作用、滋養強壮作用
30		<b>ハンゲ/半夏</b>	サトイモ科	カラスビシャク	コルク層を除いた塊茎	中枢性の鎮咳作用、制吐作用
31	鎮咳去痰薬、滋養強壮保健 薬	<b>ゴミシ/五味子</b>	マツブサ科	チョウセンゴミシ	果実	鎮咳作用
32	鼻炎用内服薬	<b>ケイガイ/荊芥</b>	シソ科	ケイガイ	花穂	発汗、解熱作用、鎮痛作用、鼻炎
33		<b>サイシン/細辛</b>	ウマノスズクサ科	ウスバサイシン、ケイリンサイシン	根、根茎	鎮痛作用、鎮咳作用、利尿作用、鼻閉改善
34		<b>シンイ/辛夷</b>	モクレン科	タムシバ、コブシ、ボウシュンカ、マグリア・ス ブレンゲリ、ハクモクレン	つぼみ	鎮静作用、鎮痛作用
35	鼻炎用内服薬、風邪薬	<b>ハラドンナ</b>	ナス科	オオカミナスビ	草本、根	抗コリン作用
36	うがい薬、健胃薬	<b>ウイキョウ/茴香</b>	セリ科	ウイキョウ	果実	うがい薬：芳香による清涼感、芳香性健胃薬
37	うがい薬、歯槽膿漏薬	<b>カミツレ</b>	キク科	カミツレ	頭花	抗炎症作用、抗菌作用、発汗・抗炎症を目的として風邪薬にも
38		<b>ミルラ</b>	カンラン科	ミルラノキ	樹脂	咽頭粘膜引き締め（収斂）作用、抗菌作用
39		<b>ラタニア</b>	クラメリア科	クレメリア・トリアンドラ	根	咽頭粘膜引き締め（収斂）作用、抗炎症

第3章  
資料3 生薬一覧(詳細)

胃腸症状に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
40	胃腸薬、制酸剤	<b>ボレイ/牡蠣</b>	イボタガキ科	カキ	貝殻	炭酸カルシウム
41	苦味健胃薬 ※味覚(苦味)により反射的に唾液分泌や胃液分泌を促すため、オブラート使用不可	<b>オウバク/黄柏</b>	ミカン科	キハダ、フェロデンドロン・キネンセ	周皮を除いた樹皮	ベルベリン含む
42		<b>オウレン/黄连</b>	キンポウゲ科	オウレン、コプティス・キネンシス、コプティス・テータ、またはデルトイデア	根をほとんど除いた根茎	
43		<b>ゲンチアナ</b>	リンドウ科	ゲンチアナ	根、根茎	
44		<b>センブリ/千振</b>	リンドウ科	センブリ	開花期の全草	
45		<b>リュウタン/竜胆</b>	リンドウ科	トウリンドウ	根、根茎	
46		<b>ユウタン/熊胆</b>	クマ科	ヒグマ、その他近縁動物	胆汁	小児鎮静剤、強心薬としても使用
47	芳香性健胃薬 ※嗅覚(芳香)により反射的に唾液分泌や胃液分泌を促すためオブラート使用不可	<b>ケイヒ/桂皮</b>	クスノキ科	シンナモムム・カッシア	樹皮、一部周皮を除いたもの	発汗促進、解熱、風邪薬にも配合
48		<b>コウボク/厚朴</b>	モクレン科	ホウノキ、カラホオノキ	樹皮	
49		<b>ショウキョウ/生姜</b>	ショウガ科	ショウガ	根茎	発汗促進、解熱、風邪薬にも配合
50		<b>ソウジュツ/蒼朮</b>	キク科	ホソバオケラ、それらの雑種	根茎	小児鎮静剤にも配合、外用で歯槽膿漏薬、口腔咽喉薬、うがい薬
51		<b>チョウジ/丁子</b>	フトモモ科	チョウジ	つぼみ	
52		<b>チンピ/陳皮</b>	ミカン科	ウンシュウミカン	成熟果皮	
53		<b>ビャクジュツ/白朮</b>	キク科	オケラ、オオバナオケラ	根茎	小児鎮静剤にも配合、外用で歯槽膿漏薬、口腔咽喉薬、うがい薬
54	瀉下剤	<b>アロエ</b>	ユリ科	ケーブアロエ	葉	大腸刺激性便秘薬
55		<b>ケンゴシ/牽牛子</b>	ヒルガオ科	アサガオ	種子	
56		<b>センナ</b>	マメ科	チンネベリセンナ、アレキサンドリアセンナ	小葉	大腸刺激成分センノシド含む、妊婦・授乳婦は服用不可
57	便秘薬、婦人薬	<b>ダイオウ/大黃</b>	タデ科	ダイオウ	根茎	
58	整腸剤	<b>ケツメイシ/決明子</b>	マメ科	エビスグサ	種子	
59		<b>ゲンノショウコ/現証拋</b>	フウロソウ科	ゲンノショウコ	地上部	

外皮用の生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
60	外皮用薬	<b>アルニカ</b>	キク科	アルニカ	全草	抗炎症作用、血行促進作用
61	外皮用薬、歯痛用薬	<b>サンシシ/山梔子</b>	アカネ科	クチナシ	果実	

### 第3章 資料3 生薬一覧(詳細)

#### 循環器系症状に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
62	強心薬	<b>シンジュ/真珠</b>	ウグイスガイ科	アコヤガイ、シンジュガイ、クロチョウガイ	外套膜に病的に形成された顆粒状物質	鎮静作用
63		<b>センソ/蟾酥</b>	ヒキガエル科	シナヒキガエル	毒腺の分泌物	微量で強い強心作用：1日5mgを越えて含有するものは劇薬、局所麻酔作用：丸薬や錠剤は嚙まない
64		<b>ブシ/附子</b>	キンポウゲ科	ハナトリカブト、オクトリカブト	塊根を減毒加工	心筋の収縮力を高めて血液循環を改善、利尿作用、鎮痛作用、プロスタグランジン抑制作用は無い
65	強心薬、滋養強壮保健薬	<b>ロクジョウ/鹿茸</b>	シカ科	マンシュウ（アカ）ジカのオス	角化していない幼角	強心・強壯作用、血行促進作用
66	循環器用薬	<b>コウカ/紅花</b>	キク科	ペニバナ	管状花	末梢血行促進、うっ血除去、局方収載のコウカの煎薬は冷感性・血色不良に使用

#### 滋養強壮に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
67	滋養強壮保健薬	<b>オウギ/黄耆</b>	マメ科	キバナオウギ、ナイモウオウギ、モウコオウギ	根	強壯作用
68		<b>サンシュユ/山茱萸</b>	ミズキ科	サンシュユ	偽果の果肉	
69		<b>サンヤク/山薬</b>	ヤマイモ科	ヤマノイモ、ナガイモ	周皮を除いた根茎	
70		<b>タイソウ/大棗</b>	クロウメモドキ科	ナツメ	果実	
71		<b>ハンピ/反鼻</b>		マムシ	内臓を取り除いた全体	
72	滋養強壮保健薬、強心薬	<b>インヨウカク/淫羊藿</b>	メギ科	エビメディウム・プレビコルヌム、ホザキイカリソウ、イカリソウ等	地上部	血行促進、性功能亢進
73	滋養強壮保健薬、解熱鎮痛薬、小児鎮静薬、強心薬	<b>ニンジン/人参</b>	ウコギ科	オタネニンジン	根、根を湯通したのもの	コウジン：オタネニンジンの根を蒸したもの、神経系の興奮・副腎皮質機能亢進作用により、ストレス耐性や新陳代謝を高める
74	滋養強壮保健薬、瀉下剤	<b>ヨクイニン/薏苡仁</b>	イネ科	ハトムギ	種皮をのぞいた種子	肌荒れ、いぼ、瀉下剤の補助成分

#### 痔に使う生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
75	痔用薬（内外用）	<b>セイヨウトチノミ</b>	トチノキ科	セイヨウトチノキ（マロニエ）	種子	血行促進、抗炎症作用
76	痔用薬（内用）	<b>カイカ/槐花</b>	マメ科	エンジュ	つぼみ	止血効果
77	痔用薬（内用）	<b>カイカク/槐角</b>	マメ科	エンジュ	成熟果実	止血効果
78	痔用薬（内用）、健胃薬	<b>オウゴン/黄芩</b>	シソ科	コガネバナ	周皮を除いた根	痔用薬：抗炎症作用、芳香性健胃薬
79	痔、口内炎用薬（外用）	<b>シコン/紫根</b>	ムラサキ科	ムラサキ	根	痔用薬：新陳代謝促進、殺菌、抗炎症、口内炎用薬：組織修復、抗菌

第3章  
資料3 生薬一覧(詳細)

泌尿器系の生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
80	泌尿器用薬	<b>ウワウルシ</b>	ツツジ科	クマコケモモ	葉	経口摂取後尿中に排出される代謝物に <b>抗菌作用あり</b> ；尿路の殺菌消毒。煎薬として用いることもある
81		<b>カゴソウ/夏枯草</b>	シソ科	ウツボグサ	花穂	利尿作用
82		<b>キササゲ</b>	ノウゼンカズラ科	キササゲ	果実	
83		<b>サンキライ/山帰来</b>	ユリ科	ケナシサルトリイバラ	塊茎	
84		<b>ソウハクヒ/桑白皮</b>	クワ科	マグワ	根皮	
85		<b>モクツウ/木通</b>	アケビ科	アケビ,ミツバアケビ	蔓性の茎	
86	泌尿器用薬、婦人薬	<b>ブクリョウ/茯苓</b>	サルノコシカケ科	<b>マツホド</b>	菌核の外層を除去したもの	利尿作用、鎮静作用、健胃作用

婦人科系の生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
87	婦人薬、強心薬、小児鎮静薬	<b>サフラン</b>	アヤメ科	サフラン	柱頭	鎮静作用、鎮痛作用、月経改善、局方収載のサフランの煎じ薬は冷え性、血色不良に使用
88	婦人薬、解熱鎮痛薬、風邪薬	<b>コブシ/香附子</b>	カヤツリグサ科	ハマスゲ	根茎	鎮静作用、鎮痛作用、月経改善
89	婦人薬、解熱鎮痛薬、風邪薬、滋養強壮保健薬	<b>センキュウ/川芎</b>	セリ科	センキュウ	根茎を湯通し	血行促進、血色不良、冷え性改善
90	婦人薬、滋養強壮保健薬	<b>ジオウ/地黄</b>	ゴマノハグサ科	アカヤジオウ	根	血行促進、血色不良、冷え性改善、強壮、鎮痛、鎮静作用
91	婦人薬、痔用薬(内用)、滋養強壮保健薬	<b>トウキ/当帰</b>	セリ科	トウキ,ホッカイトウキ	根を湯通し	血行促進、血色不良、冷え性改善、鎮痛、鎮静作用

その他の生薬

No.	薬効群	生薬名	科名	基原 <small>ピンク色は植物以外が基原</small>	部位	特徴
92	毛髪用薬(外用)、解熱鎮痛薬	<b>チクセツニンジン/竹節人参</b>	ウコギ科	トチバニンジン	根茎を湯通し	<b>毛髪用薬：血行促進、抗炎症作用</b>
93	毛髪用薬(外用)、滋養強壮保健薬	<b>カシュウ/何首烏</b>	タデ科	ツルドクダミ	塊根	<b>毛髪用薬：頭皮における脂質代謝を高め、余分な皮脂の除去</b>
94	毛髪用薬、歯槽膿漏薬(共に外用)	<b>ヒノキチオール</b>	ヒノキ科	タイワンヒノキ、ヒバ	精油成分	<b>抗菌、抗炎症作用、血行促進作用</b>
95	その他	<b>サンザシ/山査子</b>	バラ科	サンザシ,オオミサンザシ	偽果	健胃、消化促進
96		<b>セッコウ/石膏</b>	—	硫酸カルシウムの結晶	鉱物	鎮静、解熱、腸管運動抑制、利尿作用
97		<b>レンギョウ/連翹</b>	モクセイ科	レンギョウ,シナレンギョウ	果実	鎮痛、抗菌作用

第3章  
資料4 漢方一覧

風邪症状

カ：カンゾウ マ：マオウ ダ：ダイオウ

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
1	かっこんとう <b>葛根湯</b>	中等度以上	感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人 ・重篤な副作用：肝機能障害、偽アルドステロン症	○	○	
2	まおうとう <b>麻黄湯</b>	充実	かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳が出て身体のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人 ・使用を避ける人：体の虚弱な人	○	○	
3	しょうせいりゅうとう <b>小青竜湯</b>	中等度～ やや虚弱	うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症	○	○	
4	しょうさいこうとう <b>小柴胡湯</b>	中等度	ときに脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものにおける、食欲不振、はきけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人 ・重篤な副作用：間質性肺炎、肝機能障害 ・その他の副作用：膀胱炎様症状 ・使用を避ける人：インターフェロン使用中の人（間質性肺炎の恐れあり）	○		
5	さいこけいしとう <b>柴胡桂枝湯</b>	中等度～ やや虚弱	多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる	・重篤な副作用：間質性肺炎、肝機能障害 ・その他の副作用：膀胱炎様症状	○		
6	けいしとう <b>桂枝湯</b>	虚弱	汗が出るもののかぜの初期に適すとされる。		○		
7	こうそさん <b>香蘇散</b>	虚弱	神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされる		○		

痛み症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
8	しゃくやくかんぞうとう <b>芍薬甘草湯</b>	関わらず	筋肉の急激な痙攣を伴う痛みのあるものこむらがえり、筋肉の痙攣、腹痛、腰痛に適すとされる	・症状があるときだけの服用にとどめ、連用は避ける ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎、鬱血性心不全や心室頻拍 ・使用を避ける人：心臓病の人	○		
9	ちょうとうさん <b>釣藤散</b>	中等度	慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるもの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされる	・不向きな人：胃腸虚弱で冷え症の人	○		
10	ごしゅゆとう <b>呉茱萸湯</b>	中等度以下	手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するもの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔吐、しゃっくりに適すとされる		×		
11	よくいにとう <b>薏苡仁湯</b>	中等度	関節や筋肉のはれや痛みがあるもの関節痛、筋肉痛、神経痛に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人	○	○	
12	そけいかくつとう <b>疎経活血湯</b>	中等度	痛みがあり、ときにしびれがあるもの関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	○		

第3章  
資料4 漢方一覧

咳症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
13	さいぼくとう 柴朴湯	中等度	気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、 <u>かぜをひきやすく</u> 、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う人における、小児喘息、気管支喘息、気管支炎、咳、不安神経症、虚弱体質に適すとされる	・別名、小柴胡合半夏厚朴湯（小柴胡湯と半夏厚朴湯を合わせた薬） ・不向きな人：むくみの症状のある人 ・重篤な副作用：間質性肺炎、肝機能障害 ・その他の副作用：頻尿、排尿痛、血尿、残尿感等の膀胱炎様症状	○	×	
14	はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯	中等度	気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、 <u>のどのつかえ感</u> に適すとされる			×	
15	ばくもんどうとう 麦門冬湯	中等度以下	痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は <u>咽喉頭の乾燥感</u> があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽喉炎、しわがれ声に適すとされる	・不向きな人：水様痰の多い人 ・重篤な副作用：間質性肺炎、肝機能障害	○	×	
16	ごことう 五虎湯	中等度以上	<u>咳が強くでるもの</u> の咳、気管支喘息、気管支炎、小児喘息、感冒、痔の痛みに適すとされる		○	○	
17	まきょうかんせきとう 麻杏甘石湯	中等度以上	咳が出て、ときに <u>のどが渇くもの</u> の咳、小児ぜんそく、気管支ぜんそく、気管支炎、感冒、痔の痛みに適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人	○	○	
18	しんぴとう 神秘湯	中等度以上	咳、喘鳴、息苦しさがあり、 <u>痰が少ないもの</u> の小児喘息、気管支喘息に適すとされる		○	○	

のど症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
19	ききょうとう 桔梗湯	関わらず	のどがはれて痛み、ときに咳がでるもの <u>扁桃炎</u> 、扁桃周囲炎に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	○		
20	くふうげどくとう 馭風解毒湯	関わらず	喉が腫れて痛む <u>扁桃炎</u> 、扁桃周囲炎に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人 ・水又はぬるま湯に溶かしてうがいしながら少しずつゆっくり服用する	○		
21	びゃっこかにんじんとう 白虎加人参湯	中等度以上	熱感と口渇が強いものの <u>喉の渇き</u> 、ほてり、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸虚弱で冷え症の人 ・比較的長期間（1ヶ月位）服用されることがある	○		
22	きょうせいはいてきがん 響声破笛丸	関わらず	しわがれ声、咽喉不快に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	○	○	

### 第3章 資料4 漢方一覧

#### 胃腸症状、便秘症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
23	あんちゅうざん <b>安中散</b>	中等度以下	腹部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛又は腹痛があって、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる		○		
24	にんじんとう <b>人参湯</b>	虚弱	疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる		○		
25	へいさん <b>平胃散</b>	中等度以上	胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のある人における食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる		○		
26	りっくんしとう <b>六君子湯</b>	中等度以下	胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえて疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる	・重篤な副作用：肝機能障害	○		
27	けいしかしやくやくとう <b>桂枝加芍薬湯</b>	中等度以下	腹部膨満感のある人のしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる	・しぶり腹：残便感があり、繰り返し腹痛を伴い便意を催すもの	○		×
28	だいおうかんぞうとう <b>大黄甘草湯</b>	問わらず	便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常発酵、痔などの症状の緩和に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人 ・本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある	○		○
29	だいおうぼたんびとう <b>大黄牡丹皮湯</b>	中等度以上	下腹部痛があって、便秘しがちな人における、月経不順、月経困難、便秘、痔疾に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人 ・本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある	×		○
30	ましにんがん <b>麻子仁丸</b>	中等度以下	ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常発酵、痔の緩和に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人 ・本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある			○

#### 痔

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
31	おつじとう <b>乙字湯</b>	中等度以上	大便が硬く、便秘傾向があるものの痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘、軽度の脱肛に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎	○		○
32	きゅうきぎょうがいとう <b>芎歸膠艾湯</b>	中等度以下	冷え症で、出血傾向があり胃腸障害のないものの痔出血、貧血、月経異常・不正出血、皮下出血に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	○		

#### 循環器系症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
33	りょうけいじつつかんとう <b>苓桂朮甘湯</b>	中等度以下	めまい、ふらつきがあり、ときにのぼせや動悸があるものの立ちくらみ、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ、神経症、神経過敏に適すとされる	・高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人では、カンゾウ中のグリチルリチン酸による偽アルドステロン症を生じやすいので注意	○		
34	さんおうしゃんしとう <b>三黄瀉心湯</b>	中等度以上	のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安で、便秘の傾向のある人における、高血圧に伴う諸症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重感、不眠、不安）、鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる	・3つの黄のつく生薬（オウゴン、オウレン、ダイオウ）で構成される ・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、ただらら出血が長引いている人 ・本剤を使用している間は、瀉下薬の使用を避ける必要がある	×		○
35	しちもつこうかとう <b>七物降下湯</b>	中等度以下	顔色が悪くて疲れやすく、胃腸障害のないものの高血圧に伴う随伴症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重）に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人 ・使用を避ける人：15歳未満の小児	×		

### 第3章 資料4 漢方一覧

#### 精神症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
36	さんそうにんとう 酸棗仁湯	中等度以下	心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症、神経症に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱い人、下痢又は下痢傾向のある人	○		
37	かみきひとう 加味帰脾湯	中等度以下	心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる		○		
38	さいこかりゅうこつぼれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯	中等度以上	精神不安があつて、動悸、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状（動悸、不安、不眠）、神経症、更年期障害、小児夜なき、便秘に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、瀉下薬（下剤）を服用している人	×	○	
39	けいしかりゅうこつぼれいとう 桂枝加竜骨牡蛎湯	中等度以下	疲れやすく、興奮しやすいものの神経質、不眠症、小児夜なき、夜尿症、眼精疲労、神経症に適すとされる		○		
40	しょうけんちゅうとう 小建中湯	虚弱	疲労しやすく、血色がすぐれないがすぐれず、ときに動悸、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱体質、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされる	・桂枝加芍薬湯に「膠飴（コウイ＝飴）」を加えた処方	○		
41	よくかんさん 抑肝散	中等度	神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。	・心不全を引き起こす可能性がある	○		

#### 排尿トラブル

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
42	ごしじゃんきがん 牛車腎気丸	中等度以下	疲れやすく、四肢が冷えやすく尿量減少し、むくみがあり、ときに口渇があるもの下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状の改善（肩こり、頭重、耳鳴り）に適すとされる	・八味地黄丸にゴシツとシャゼンシが加わった処方 ・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎	×		
43	はちみじおうがん 八味地黄丸	中等度以下	疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿でときに口渇があるもの下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、痒み、排尿困難、夜間尿、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状の改善（肩こり、頭重、耳鳴り）、尿漏れに適すとされる。	・使用を避ける人：胃腸の弱い人、下痢しやすい人 ・不向きな人：のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人	×		
44	ろくみがん 六味丸	中等度以下	疲れやすく尿量減少または多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、痒み、夜尿症、しびれに適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	×		
45	ちよれいとう 猪苓湯	関わらず	排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる		×		
46	りゅうたんしゃかんと 竜胆瀉肝湯	中等度以上	下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）の症状に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	○		

#### 滋養強壯

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
47	じゅうぜんたいほうとう 十全大補湯	虚弱	病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血に適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人 ・重篤な副作用：肝機能障害	○		
48	ほちゅうえっきとう 補中益気湯	虚弱	元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠、病後・術後の衰弱、食欲不振、寝汗、感冒に適すとされる	・重篤な副作用：間質性肺炎、肝機能障害	○		

第3章  
資料4 漢方一覧

女性用漢方

★：3大婦人用漢方薬

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
49	うんけいとう 温経湯	中等度以下	手足がほてり、唇が乾く人における、月経不順、月経困難、こしけ（おりもの）、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけ、手あれに適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人	○		
50	うんせいりん 温清飲	中等度	皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの月経不順、月経困難、血の道症注）、更年期障害、神経症、湿疹・皮膚炎に適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人 ・重篤な副作用：肝機能障害	×		
51	かみしょうようさん ★加味逍遙散	中等度以下	のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安等やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症に適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人 ・重篤な副作用：肝機能障害、腸間膜静脈硬化症	○		
52	けいしぶくりょうがん ★桂枝茯苓丸	比較的あり	ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人 ・重篤な副作用：肝機能障害	×		
53	ごしゃくさん 五積散	中等度～やや 虚弱	冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人	○	○	
54	さいこけいしかんきょうとう 柴胡桂枝乾姜湯	中等度以下	冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸、息切れ、ときにねあせ、頭部の発汗、口の渴きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる	・重篤な副作用：間質性肺炎、肝機能障害	○		
55	しもつとう 四物湯	虚弱	冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人、下痢しやすい人	×		
56	とうかくじょうきとう 桃核承気湯	中等度以上	のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人	○	○	
57	とうきしゃくやくさん ★当帰芍薬散	虚弱	冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸等を訴える人における、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後又は流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ、耳鳴り、低血圧に適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人	×		

第3章  
資料4 漢方一覧

アレルギー症状

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
58	じゅうみはいどくとう <b>十味敗毒湯</b>	中等度	発赤があり、ときに化膿するものの <b>化膿性皮膚疾患</b> ・急性皮膚疾患の初期、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、水虫に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人	○		
59	しょうふうさん 消風散	中等度以上	皮膚疾患で、 <u>痒みが強くて分泌物が多く</u> 、ときに局所の熱感があるものの湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、水虫、あせもに適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人	○		
60	とうきいんし 当帰飲子	中等度	冷え症で、皮膚が乾燥するものの湿疹・皮膚炎（ <u>分泌物の少ないもの</u> ）、痒みに適すとされる	・不向きな人：胃腸が弱く下痢しやすい人	○		
61	けいがいれんぎょうとう 荊芥連翹湯	中等度以上	皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に <b>脂汗</b> をかきやすく腹壁が緊張しているものの蓄膿症、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきびに適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎	○		
62	かつこんとうかせんきゅうしんい <b>葛根湯加川芎辛夷</b>	比較的あり	鼻づまり、 <b>蓄膿症</b> （副鼻腔炎）、慢性鼻炎に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱い人、発汗傾向の著しい人	○	○	
63	しんいせいはいとう 辛夷清肺湯	中等度以上	<u>濃い鼻汁</u> が出て、ときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症に適すとされる。	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸虚弱で冷え症の人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎、腸間膜静脈硬化症	×		
64	いんちんこうとう 茵陳蒿湯	中等度以上	口渇があり、尿量少なく、 <u>便秘</u> するものの <b>蕁麻疹</b> 、口内炎、皮膚の痒みに適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人	×		○

その他

	漢方名	体力	効能・効果	備考	カ	マ	ダ
65	おうれんげどくとう <b>黄連解毒湯</b>	中等度以上	のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの <b>鼻出血</b> 、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎、腸間膜静脈硬化症	×		
66	ぼういおうぎとう <b>防己黄耆湯</b>	<u>中等度以下</u>	疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる <b>水ぶとり</b> ）に適すとされる	・虚証の肥満症に用いることがある ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症	○		
67	ぼうふうつうしょうさん <b>防風通聖散</b>	<b>充実</b>	腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの <b>高血圧</b> や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症に適すとされる	・実証の肥満症に用いることがある ・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、発汗傾向の著しい人 ・本剤を使用するときには、他の瀉下薬との併用は避けることとされている ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症	○	○	○
68	ださいこうとう <b>大柴胡湯</b>	充実	脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向がある人における、胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる	・不向きな人：体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人 ・重篤な副作用：肝機能障害、間質性肺炎	×		○
69	せいじょうぼうふうとう <b>清上防風湯</b>	中等度以上	赤ら顔でときにのぼせがある人における、にきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、 <b>赤鼻</b> （酒さ）に適すとされる	・不向きな人：胃腸の弱い人 ・重篤な副作用：肝機能障害、偽アルドステロン症	○	×	

第3章  
資料5 衛生害虫

	媒介する病原体	特記事項	防除
ハエ	O-157、赤痢アメーバなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫をウジと呼ぶ</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウジの防除が基本となる</li> <li>ウジの防除法：通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる</li> <li>ウジ・ボウフラの防除：毒性の問題から、有機塩素系の中ではオルトジクロベンゼンのみ使用されている</li> </ul>
蚊	日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱など	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫をボウフラと呼ぶ</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボウフラの防除：水系に殺虫剤を投入</li> <li>成虫の防除：医薬部外品の殺虫剤（蚊取り線香、エアゾール等）を使用</li> <li>蚊取り線香：線香にピレスロイド系成分が練り込まれている</li> <li>虫よけスプレー：ディートを含むものが多い</li> </ul>
ゴキブリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>サルモネラ菌、ブドウ球菌、O-157大腸菌など</li> <li>アメーバ赤痢等の中間宿主</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>燻蒸処理：3週間位後にもう一度燻蒸処理を行い、孵化した幼虫を駆除</li> <li>→ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しない殻で覆われており殺虫効果を示さないため</li> </ul>
シラミ	リケッチア（日本紅斑熱や発疹チフス等の病原細菌）など	<ul style="list-style-type: none"> <li>吸血箇所には激しい痒み</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェノトリン配合のシャンプーやてんか粉</li> <li>フェノトリンは殺虫成分で唯一人体に直接適用される</li> <li>→シラミの刺咬による痒みや腫れ等の症状を和らげる作用はない</li> </ul>
トコシラミ	ペスト、再帰熱、発疹チフスなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラミの一種でなくカメムシ目に属する</li> <li>別名ナンキンムシ</li> <li>刺されると激しい痒痛</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハエ、蚊、ゴキブリと同様な殺虫剤</li> </ul>

第3章  
資料6 殺菌消毒成分

1. 傷口の殺菌消毒成分

	細菌	真菌	結核菌	ウイルス	特徴
アクリノール	○ (一部)	×	×	×	黄色色素
オキシドール (過酸化水素)	○ (一部)	×	×	×	・ 活性酸素の酸化作用による殺菌 ・ 作用時間短い ・ 組織浸透性が低い
マーキュロクロム ※通称赤チン。製造中止になったが手引きには記載あり。	○ (一部)	×	×	×	・ 有機水銀の一種だが皮膚浸透性が低い ・ ヨードチンキとの使用で殺菌力低下
陽性界面活性成分 -ベンザルコニウム塩化物 -ベンゼトニウム塩化物 -セチリピリジニウム	○ (一部)	○ (一部)	×	×	石鹼との混合で殺菌消毒作用低下
クロルヘキシジングルコン酸塩	○	○	×	×	
ヨウ素系殺菌消毒成分 -ポピドンヨード -ヨードチンキ	○	○	○	○	・ アルカリ性で殺菌力低下 ・ ポピドンヨード：ヨウ素をPVPで水溶性にしたもの ・ ヨードチンキ：ヨウ素をエタノールに溶解したもの
エタノール	○	○	○	○	人体・器具類に使用
その他 イソプロピルメチルフェノール、チモール、フェノール、レゾルシン	細菌や真菌類のたんぱく質を変性させる				

2. 公衆衛生に使われる殺菌消毒成分

	細菌	真菌	結核菌	ウイルス	特徴
クロルヘキシジングルコン酸塩	○	○	×	×	人体・器具類に使用
クレゾール石鹼液	○	○	○	△	・ 人体・器具類に使用 ・ 大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない
エタノール、イソプロパノール	○	○	○	○	・ 人体・器具類に使用 ・ ウイルスに対する不活性効果：イソプロパノール<エタノール
塩素系殺菌消毒成分 -次亜塩素酸ナトリウム -サラシ粉	○	○	○	○	器具に使用
有機塩素系殺菌消毒成分 -ジクロロイソシアヌル酸Na -トリクロロイソシアヌル酸	○	○	○	○	設備などに使用 (プール等の大型施設)

第4章  
資料1 医薬品の販売制度

業態	薬局	卸売販売業	店舗販売業	配置販売業
許可の種類	薬局開設の許可	医薬品販売業の許可（上記の全3種類）		
更新	6年ごと			
調剤	○	×	×	×
扱える医薬品	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療用医薬品</li> <li>●薬局製造販売医薬品</li> <li>●要指導医薬品</li> <li>●一般用医薬品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療用医薬品</li> <li>●要指導医薬品</li> <li>●一般用医薬品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●要指導医薬品</li> <li>●一般用医薬品</li> </ul> ※「処方箋医薬品以外の医療用医薬品」も取扱い不可（下図参照）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般用医薬品</li> </ul> ※厚生労働大臣の定める基準に適合した一般用医薬品のみ（その他参照）
分割販売	○ ※特定の購入者に対して行える。			×
許可する者	所在地の都道府県知事	営業所ごとに都道府県知事	店舗ごとに、店舗の所在地の都道府県知事、または保健所を設置する市または特別区の場合は市長又は区長	配置する区域をその区域に含む都道府県ごとに、その知事
管理者	薬剤師	営業所管理者 ：原則薬剤師	店舗管理者 ：薬剤師or登録販売者	区域管理者 ：薬剤師or登録販売者
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●薬剤師が販売または授与の目的で調剤の業務を行う場所（医療提供施設）である。</li> <li>●薬局医薬品とは？：下図参照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●すべての医薬品を販売できるが、販売先は薬局開設者や販売業者で、<b>一般の生活者には販売できない。</b></li> <li>●店舗販売業者に対しては一般用医薬品及び要指導医薬品以外の医薬品を、配置販売業者に対しては一般用医薬品以外の医薬品を販売または授与してはならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調剤不可</li> <li>●管理者要件（いずれも過去5年のうち） (1)2,3類を扱う店舗：薬局、店舗販売業または配置販売業において次の①②の合計が通算2年以上 ①一般従事者として薬剤師または登録販売者の管理及び指導の下に実務に従事した期間 ②登録販売者として業務に従事した期間 (2)要指導,1類を扱う店舗：<b>要指導医薬品または第一類医薬品を販売する</b>薬局、店舗販売業または配置販売業（かつ管理者が薬剤師であることも必要）において、登録販売者として業務に従事した期間が通算して3年以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●厚生労働大臣の定める基準</li> <li>・経年変化が起こりにくい</li> <li>・剤形、用法、用量等からみて使用方法が簡易である</li> <li>・容器や被包が壊れやすい、破れやすいものでない</li> <li>●配置販売業者とその配置員は、その氏名、従事しようとする区域等をあらかじめ配置販売に従事しようとする区域の都道府県知事に届け出なければならない。</li> <li>●配置販売業者またはその配置員は、<b>その住所地の都道府県知事が発行する身分証明書の交付を受け、それを携帯しなければならない。</b></li> </ul>

医薬品の分類



TOKYO MAQUILLA Inc.2020 27

第4章  
資料2 医薬品の分類

分類	要指導医薬品	一般用医薬品			
		第一類	指定第二类	第二类	第三類
特徴	ダイレクトOTC、スイッチ直後品目、毒薬・劇薬のうち、適正な使用のために薬剤師の対面による情報提供と薬学的知見に基づく指導が必要なものとして厚生労働大臣が指定するもの	・日常生活に支障をきたす程度の健康被害が生じるおそれがある医薬品のうち、特に注意が必要なものとして厚生労働大臣が指定するもの ・ダイレクトOTC、スイッチOTC	・日常生活に支障をきたす程度の健康被害が生じるおそれがある医薬品で厚生労働大臣が指定するもの ・指定第二类医薬品は、第二类医薬品のうち、特別の注意を要するものとして厚生労働大臣が指定するもの	第一類医薬品、第二类医薬品以外の一般用医薬品 →日常生活に支障をきたす程ではないが副作用等により身体の変調や不調が生じるおそれはある	
保健衛生上のリスク	※記載なし	特に高い	比較的高い	比較的低い	
情報提供者	薬剤師	薬剤師	薬剤師、登録販売者	薬剤師、登録販売者	
情報提供	義務	義務	努力義務	特になし（望ましい）	
販売記録の保存	2年間		購入者から相談があった場合：義務		
特定販売	不可	可			
陳列 (薬局、店舗販売業)	要指導医薬品陳列区画内部 かぎをかけた陳列設備、または購入者が直接手を触れられない陳列設備に陳列する場合を除く	第一類医薬品陳列区画内部 かぎをかけた陳列設備、または購入者が直接手を触れられない陳列設備に陳列する場合を除く	「情報提供を行うための設備」から7m以内 かぎをかけた陳列設備、または指2医薬品から1.2mの範囲に購入者が進入できない陳列設備の場合を除く		

第一類医薬品

第一類医薬品の定義では「既存の要指導医薬品及び一般用医薬品と有効成分、分量、用法用量、効能効果等が明らかに異なるもので、一般用医薬品としての使用経験が少なく、承認を受けてから定める期間を経過しないもの」を第一類医薬品とする条文があるが、ダイレクトOTCやスイッチOTCがこれにあたる。

	ダイレクトOTC	スイッチOTC
概要	医療用医薬品を経ずに直接一般用医薬品の有効成分として申請され承認されたもの	医療用医薬品から一般用医薬品への転用
第一類医薬品に区分される期間	再審査期間（約8年）に1年を加えた期間	安全性調査期間（約3年）に1年を加えた期間

※承認にあたって要指導医薬品として指定されたものについては、要指導医薬品から第一類医薬品に移行してから原則1年間。

第4章  
資料3 情報提供その他

情報提供及び指導を行うにあたり予め確認する事項

要指導医薬品	第一類医薬品	第二类医薬品	第三類医薬品
義務	義務	努力義務	規定なし

i) 年齢
ii) 他の医薬品の使用の状況
iii) 性別
iv) 症状
v) iv) に関して医師等に診断されたか？と診断の内容
vi) 現在かかっている疾病がある場合は、その病名
vii) 妊娠の有無、妊娠中の場合は妊娠週数
viii) 授乳の有無
ix) その医薬品の購入歴、使用歴
x) 医薬品の副作用歴
xi) その他情報提供のために必要な事項

情報提供に用いる書面の記載事項

要指導医薬品	第一類医薬品	第二类医薬品	第三類医薬品
義務	義務	努力義務	規定なし

①医薬品の <b>名称</b>
②有効 <b>成分</b> の名称及び分量
③ <b>用法・用量</b>
④ <b>効能・効果</b>
⑤使用上注意のうち、保健衛生上の危害の発生を防止するために必要な事項
⑥その他販売する薬剤師が適正使用のために必要と判断する事項

販売時に購入者に伝える事項

要指導医薬品	第一類医薬品	第二类医薬品	第三類医薬品
義務	義務	義務	義務

①販売した薬剤師又は登録販売者の <b>氏名</b>
②薬局、店舗の <b>名称</b>
③薬局、店舗又は配置販売業者の <b>電話番号</b> その他連絡先
※要指導医薬品の場合、以下も確認する
・購入者がその <b>医薬品の使用者本人</b> であるか？
・他店にてその医薬品を購入していないか？
※指定二類の場合、以下の措置も必要
・積極的な情報提供のために陳列を工夫する
・ <b>禁忌</b> の確認と使用について薬剤師又は登録販売者に相談することを勧める旨

情報提供及び指導の方法

要指導医薬品	第一類医薬品	第二类医薬品	第三類医薬品
義務	義務	努力義務	規定なし

要指導医薬品	第一類医薬品
①薬局又は店舗内の情報提供を行う場所にて行う	①左記に同じ
②その医薬品の <b>特性</b> 、用法、用量、使用上の注意、併用を避けるべき医薬品などを購入者の状況に応じて個別に提供し必要な <b>指導</b> を行う	②その医薬品の用法、用量、使用上の注意、併用を避けるべき医薬品などを購入者の状況に応じて個別に提供する
③副作用が発生した場合の対応	③左記に同じ
④情報提供、 <b>指導</b> の内容を理解したか？と質問の有無	④情報提供の内容を理解したかどうかと質問の有無
⑤必要に応じて、 <b>その要指導医薬品に代えて他の医薬品の使用を勧める</b>	
⑥必要に応じて、医師等の診断を受けることを勧める	⑤左記に同じ
⑦情報提供を行った薬剤師の氏名を伝える	⑥左記に同じ

販売記録（書面）への記載事項

要指導医薬品	第一類医薬品	第二类医薬品	第三類医薬品
義務	義務	努力義務	努力義務 ((e)は不要)

(a) 品名
(b) 数量
(c) 販売、授与、配置した日時
(d) 販売、授与、配置した薬剤師（または登録販売者）の氏名、情報提供を行った薬剤師（または登録販売者）の氏名
(e) 医薬品の購入者等が情報提供の内容を理解したことの確認の結果
※医薬品の購入者等の <b>連絡先</b> ： <b>努力義務</b>

第4章  
資料4 毒薬、劇薬

※毒劇物自体は試験には出ないが、質問が多いため比較のために記載。

- 毒薬は**毒性**が強いもの、劇薬は**劇性**が強いものとして、厚生労働大臣が**薬事・食品衛生審議会**の意見を聴いて指定する医薬品
- 薬効が期待される摂取量（**薬用量**）と中毒のおそれがある摂取量（**中毒量**）が接近しており**安全域が狭い**ため、その取扱いに注意を要するもの等が指定される

区分	毒薬	劇薬	毒物	劇物
	医薬品	医薬品	医薬品以外	医薬品以外
LD50の値	経口<30mg/kg 皮下注射<20mg/kg 静脈注射<10mg/kg	経口<300mg/kg 皮下注射<200mg/kg 静脈注射<100mg/kg	経口<50mg/kg 経皮<200mg/kg	経口<300mg/kg 経皮<1000mg/kg
例	●医療用：多くの抗がん剤 ●要指導・一般用医薬品：なし	●医療用：多くのワクチン等、多くの医薬品 ●要指導医薬品：ED改善薬	青酸カリ、水銀、フッ酸、ヒ素 など	塩酸、硫酸、硝酸 など
販売規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14歳未満：×</li> <li>・その他安全な取り扱いに不安のある者：×</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳未満：×</li> <li>・その他規定あり</li> </ul>	
販売記録の保存	2年間		5年間	
表示				
	黒地に白枠、白字で、その品名および「毒」の文字	白地に赤枠、赤字でその品名および「劇」の文字	赤地に白色で「医療用外毒物」の文字	白地に赤色で「医療用外劇物」の文字
開封販売 (=分割販売)	薬局、卸売販売業、店舗販売業：○ ※管理者が <b>薬剤師</b> である必要がある。 配置販売業：×			
貯蔵・陳列	鍵が必要	鍵は不要		
	他の医薬品と区別する			
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の生活者に対して販売又は譲渡する際には、当該医薬品を譲り受ける者から、<b>品名、数量、使用目的、譲渡年月日、譲受人の氏名、住所及び職業</b>が記入され、<b>署名又は記名押印</b>された文書の交付を受けなければならない。</li> <li>・一般用医薬品で毒薬又は劇薬に該当するものはなく、要指導医薬品で毒薬又は劇薬に該当するものはごく一部である。</li> </ul>			

第4章  
資料5 食品の分類

区分	特別用途食品	特別用途食品かつ保健機能食品	保健機能食品	
種類	病者用食品、妊産婦・授乳婦用粉乳 乳児用調製粉乳、嚥下困難者用食品、特定保健用食品	特定保健用食品	栄養機能食品	機能性表示食品
関連法規・制度	健康増進法	健康増進法かつ保健機能食品制度	保健機能食品制度	
対象	乳児、幼児、妊産婦、病者	生活習慣病やおなかの調子が気になる人	栄養バランスが気になる人	商品によって異なる
定義	特別用途（発育、健康保持・回復など）に適する旨の表示の許可等を受けた食品	食生活において特定の保健の目的で摂取をする者に対し、その摂取により当該保健の目的が期待できる旨の表示をする食品	1日当たりの摂取目安量が基準に適合しており、栄養成分の補給のために利用される食品で、栄養成分の機能を表示するもの	事業者の責任のもとで機能性と安全性に関する科学的な根拠を明確にしたもの
例	◆病者用食品：低たんぱく質食品 アレルゲン除去食品 ◆妊産婦、授乳婦用粉乳 ◆ミルクアレルギー乳児用粉乳 ◆嚥下困難者用とろみ調整用食品	◆おなかの調子を整える等：～糖、～デキストリン、～菌等 ◆血圧が高めの方に適する等：～ペプチド、～配糖体 等	◆ビタミン ◆ミネラル	エビデンスがあれば生鮮食品やサプリメントなどなんでもOK ◆目の健康維持に役立つ ◆脂肪の吸収をおだやかにする 等
承認等	消費者庁の許可または承認	有効性・安全性の審査と消費者庁の許可または承認	消費者庁の許可不要 ※規格が満たしていれば何も申告する必要がない	消費者庁へ届出
マーク	消費者庁の許可マーク 	消費者庁の許可マーク 		

機能性表示食品とは？

平成27年に始まった新食品制度。トクホの制度のわずらわしさを改善し、届出のみで表示が可能。事業者（メーカー）の責任の元、効能のエビデンス（根拠）を吟味して作られるが、その食品の効能は事業者の自己申告に近い。行政は効能については基本ノータッチなので（届出のみで承認などをしないため）問題が発生することもある。例えば、機能性表示食品の効能について疑問を持った消費者の声が行政に届いた時、行政はその商品について初めて詳しく調査することになり、そこでエビデンスが不確かだとされると、メーカーに注意、または最悪の場合、販売中止や回収といった対応になる可能性もある。

第4章  
資料6 医薬部外品、化粧品、食品の違い

	医薬部外品	化粧品	食品
概要定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効能の高さ：化粧品 &lt; 医薬部外品 &lt; 医薬品</li> <li>・ <b>機械機器類でない</b>もので、人体に直接使用しないものも含む</li> <li>・ 吐き気その他の不快感、口臭、体臭、あせも、ただれ、脱毛の防止、育毛・除毛で使われる製品</li> <li>・ 衛生害虫類（ねずみ、ハエなど）の<b>防除</b>のための製品類</li> <li>・ 前項第二号又は第三号に規定する目的のために使用される物のうち厚生労働大臣が指定するもの（手引きの<b>別表4-1. 医薬部外品の効能効果の範囲</b>を参照）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の身体を<b>清潔</b>にし、<b>美化</b>し、<b>魅力</b>を増し、<b>容貌</b>を変え、又は皮膚若しくは毛髪をすこやかに保つために、<b>身体</b>に塗擦、散布その他これらに類似する方法で使用されることが目的とされている物で、人体に対する作用が緩和なものと言う。</li> <li>・ 手引きの<b>別表4-2.化粧品の効能効果の範囲</b>を参照。</li> </ul>	<p>医薬品、医薬部外品及び再生医療等製品以外のすべての飲食物。</p>
医薬品的表示	△ 効能効果があらかじめ決められた範囲内であって、人体に対する作用が緩和であることを前提に、医薬品的効能効果を表示できる。	× 医薬品的効能効果の表示は一切認められていない	× 医薬品的効能効果の表示は一切認められていない
製造販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬部外品製造販売業の<b>許可</b>が必要</li> <li>・ 品目ごとの<b>承認</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化粧品製造販売業の<b>許可</b>が必要</li> <li>・ 品目ごとの<b>届出</b></li> </ul> <p>※厚生労働大臣が指定する成分を含有する場合は品目ごとの<b>承認</b></p>	登録販売者試験の範囲では問われない。
販売	許可も届出も <b>不要</b> （「販売業」の許可は無い）		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「薬用」と付くものも医薬部外品</li> <li>・ 指定医薬部外品：比較的安全性が高いと判断され、<b>医薬品から移行</b>したもの。整腸薬など。</li> <li>・ 医薬部外品の直接の容器又は直接の被包には、「<b>医薬部外品</b>」の文字の表示が義務付けられている。</li> </ul>		<p>&lt; 医薬品とみなされる基準 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原材料が医薬品成分である</li> <li>・ アンプル剤や舌下錠など<b>医薬品的な形状</b>である</li> </ul> <p>医薬品的な<b>用法・用量</b>の記載がある</p>

**第4章**  
**資料7 薬局または店舗における掲示と特定販売**

特定販売：その薬局又は店舗におけるその薬局又は**店舗以外**の場所にいる者に対する**一般用医薬品**又は**薬局製造販売医薬品**（毒薬及び劇薬を除く。）の販売又は授与。

**【特定販売を行う場合に必要なこと】**

- 1.当該薬局又は店舗に**貯蔵**し、又は**陳列**している**一般用医薬品**又は**薬局製造販売医薬品**を販売し、又は授与すること。※**要指導医薬品**の特定販売は**不可**
- 2.特定販売を行うことについて広告をするときは、インターネットを利用する場合は**ホームページ**に、その他の広告方法を用いる場合は当該広告に、次に掲げる情報を、見やすく表示すること。

※以下の「薬局又は店舗の管理及び運営に関する事項」「要指導医薬品及び一般用医薬品の販売制度に関する事項」は**実店舗の場合も特定販売の場合も基本的に同じ内容**です。

薬局又は店舗の管理及び運営に関する事項	要指導医薬品及び一般用医薬品の販売制度に関する事項	特定販売に伴う事項
① 許可の区分の別	① 要指導医薬品、第一類医薬品、第二類医薬品及び第三類医薬品の <b>定義</b> 及びこれらに関する解説	① 薬局又は店舗の主要な <b>外観</b> の写真
② 開設者の <b>氏名</b> 又は <b>名称</b> 、許可証の記載事項	② 要指導医薬品、第一類医薬品、第二類医薬品及び第三類医薬品の <b>表示</b> に関する解説	② 一般用医薬品の <b>陳列</b> の状況を示す写真
③ 薬局、店舗の <b>管理者の氏名</b>	③ 要指導医薬品、第一類医薬品、第二類医薬品及び第三類医薬品の <b>情報の提供</b> に関する解説	③ 現在勤務している薬剤師又は第十五条第二項の登録販売者以外の登録販売者若しくは同項の登録販売者の別及びその <b>氏名</b>
④ <b>勤務する薬剤師</b> 又は第十五条第二項の登録販売者以外の <b>登録販売者</b> 若しくは同項の登録販売者の別、その <b>氏名</b> 及び <b>担当業務</b>	④ 要指導医薬品の <b>陳列</b> に関する解説 ※要指導医薬品を販売しない場合も <b>掲示する必要あり</b>	④ 開店時間と特定販売を行う時間が異なる場合にあっては、その開店時間及び特定販売を行う時間
⑤ 取り扱う要指導医薬品及び一般用医薬品の区分	⑤ 指定第二類医薬品の <b>陳列</b> （特定販売の場合は <b>表示</b> ）等に関する解説	⑤ 特定販売を行う薬局製造販売医薬品（毒薬及び劇薬を除く。）又は一般用医薬品の <b>使用期限</b>
⑥ 薬局、店舗に勤務する者の名札等による区別に関する説明	⑥ 指定第二類医薬品を購入し、又は譲り受けようとする場合は、当該指定第二類医薬品の <b>禁忌</b> を確認すること及び当該指定第二類医薬品の使用について薬剤師又は登録販売者に <b>相談</b> することを勧める旨	①例  ②例 
⑦ 営業時間、営業時間外で相談できる時間及び営業時間外で医薬品の購入、譲受けの申し込みを受理する時間	⑦ 一般用医薬品の <b>陳列</b> （特定販売の場合は <b>表示</b> ）に関する解説	
⑧ 相談時及び緊急時の電話番号その他連絡先	⑧ 医薬品による <b>健康被害の救済制度</b> に関する解説	
	⑨ <b>個人情報</b> の適正な取扱いを確保するための措置	
	⑩ その他必要な事項	

- 3.特定販売を行うことについて広告をするときは、第一類医薬品、指定第二類医薬品、第二類医薬品、第三類医薬品及び薬局製造販売医薬品の**区分ごと**に表示すること。
- 4.特定販売を行うことについてインターネットを利用して広告をするときは、**都道府県知事及び厚生労働大臣が容易に閲覧することができるホームページ**で行うこと。特定販売を行う場合であっても、一般用医薬品を購入しようとする者等から、**対面又は電話**により相談応需の希望があった場合には、薬局開設者又は店舗販売業者は、その薬局又は店舗において医薬品の販売又は授与に従事する薬剤師又は登録販売者に、対面又は電話により情報提供を行わせなければならない。

## 第5章

### 資料1 医薬品副作用被害救済制度の給付の種類

救済給付の対象となるには、添付文書や外箱等に記載されている用法・用量、使用上の注意に従って使用されていることが基本となる。

給付の種類	副作用の結果	説明	請求できる人	内容	補償額	請求期限
医療費	入院 ※自然治癒は対象とならない	副作用による疾病の治療に要した費用（ただし、健康保険等による給付の額を差し引いた自己負担分）を実費補償するものです（健康保険の療養に要する費用の額の算定方法の例による）。	治療を受けた本人	治療費	実費保障	医療費の支給の対象となる費用の支払いが行われたときから5年以内
医療手当		副作用による疾病の治療に伴う医療費以外の費用の負担に着目して給付されるものです。	治療を受けた本人	治療費以外の費用	定額	請求に係る医療が行われた日の属する月の翌月の初日から5年以内
障害年金	障害	副作用により一定程度の障害の状態にある18歳以上の人の生活補償等を目的として給付されるものです。	障害の状態となった18歳以上の本人	生活補償等	定額	請求期限なし
障害児養育年金		副作用により一定程度の障害の状態にある18歳未満の人を養育する人に対して給付されるものです。	障害の状態となった18歳未満の本人の養育者	養育費	定額	
遺族年金	死亡	生計維持者が副作用により死亡した場合に、その遺族の生活の立て直し等を目的として給付されるものです（最高10年間で限度）。	生計維持者を亡くした遺族	生活の立て直し費用	定額	死亡のときから5年以内
遺族一時金		生計維持者以外の方が副作用により死亡した場合に、その遺族に対する見舞等を目的として給付されるものです。	生計維持者以外の人を亡くした遺族	見舞金	定額	
葬祭料		副作用により死亡した人の葬祭を行うことに伴う出費に着目して給付されるものです。	葬祭を行った人	葬祭費	定額	

救済の対象とならない医薬品：①人体に直接使用しないもの（殺虫剤、殺鼠剤、人体に直接使用しない殺菌消毒剤、一般用検査薬）

②一部の日局収載医薬品（精製水、ワセリンなど）③製薬企業に損害賠償責任のあるもの ④無承認無許可医薬品

※無承認・無許可医薬品とは

健康食品などで、医薬品とみなす判断基準【1.物の成分本質（原材料）は医薬品に該当しないか 2.医薬品的な効能効果を標ぼうしていないか 3.医薬品的な形状ではないか（例：アンプル） 4.医薬品的な用法用量ではないか】に当てはまる場合、それを「無承認・無許可医薬品」と呼んでいる。

要指導・一般用医薬品の救済給付に必要な書類：医師の診断書、医療費を証明する書類（領収書等）、薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書

医薬品PLセンター：上記③の場合に活用。裁判によらず、公平・中立な立場で医薬品又は医薬部外品に関する相談（苦情）の申し立てを受け付け、解決に導くことが目的。健康被害以外の苦情もOK。日本製薬団体連合会において、平成7年7月のPL法の施行と同時に開設された。Product Liability：製造物責任

## 第5章

### 資料2 使用上の注意 頻出まとめ

※この表はすべての成分を網羅していません。手引きの別表5-1と5-2をご参照の上、ご活用ください。

#### イブプロフェン

してはいけないこと：次の人は使用（服用）しないこと	アレルギーの既往歴	本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）して <b>ぜんそく</b> を起こしたことがある人
	小児における年齢制限	<b>15歳未満</b> の小児
	妊婦、授乳婦等	出産予定日 <b>12週</b> 以内の妊婦
相談すること	妊婦又は妊娠していると思われる人	
	基礎疾患等	次の診断を受けた人 <b>肝臓病、心臓病、腎臓病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病</b>

#### ブソイドエフェドリン

してはいけないこと：次の人は使用（服用）しないこと	アレルギーの既往歴	本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人
	症状・状態	次の症状がある人 <b>前立腺肥大</b> による排尿困難
	基礎疾患等	次の診断を受けた人 <b>心臓病、高血圧、甲状腺機能障害、糖尿病</b>
相談すること	授乳中の人	
	基礎疾患等	次の診断を受けた人 腎臓病
	併用薬等	<b>モノアミン酸化酵素阻害剤</b> （セレギリン塩酸塩等）で治療を受けている人

#### ジプロフィリン

相談すること	基礎疾患等	次の診断を受けた人 <b>てんかん</b> 、甲状腺機能障害、甲状腺機能亢進症、心臓病
--------	-------	--

#### カフェイン

してはいけないこと	症状・状態	次の人は使用（服用）しないこと：次の症状がある人 胃酸過多
	基礎疾患等	次の人は使用（服用）しないこと：次の診断を受けた人 <b>心臓病、胃潰瘍</b>
	食品との相互作用に関する注意	コーヒーやお茶等のカフェインを含有する飲料と同時に服用しないこと
	連用に関する注意	眠気防止薬「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」
相談すること	授乳中の人	乳児に <b>頻脈</b> や不眠等を引き起こすおそれ

## 第5章

### 資料2 使用上の注意 頻出まとめ

#### 芍薬甘草湯

してはいけないこと	基礎疾患等	次の人は使用（服用）しないこと：次の診断を受けた人 <b>心臓病</b>
	連用に関する注意	症状があるときのための服用にとどめ、連用しないこと

#### アルミニウム含有成分（スクラルファート、ケイ酸アルミン酸マグネシウム、合成ヒドロタルサイト、アルジオキサ等）

してはいけないこと：次の人は使用（服用）しないこと	基礎疾患等	次の診断を受けた人 <b>透析療法を受けている人</b>
相談すること	基礎疾患等	次の診断を受けた人 腎臓病

#### アミノ安息香酸エチル

してはいけないこと：次の人は使用（服用）しないこと	小児における年齢制限	<b>6歳未満</b> の小児： <b>メトヘモグロビン血症</b> を起こすおそれがある
---------------------------	------------	---

#### リゾチーム塩酸塩

してはいけないこと：次の人は使用（服用）しないこと	アレルギーの既往歴	本剤又は本剤の成分、 <b>鶏卵</b> によりアレルギー症状を起こしたことがある人
---------------------------	-----------	--

#### タンニン酸アルブミン、カゼイン等（添加物）

してはいけないこと：次の人は使用（服用）しないこと	アレルギーの既往歴	本剤又は本剤の成分、 <b>牛乳</b> によるアレルギー症状を起こしたことがある人
---------------------------	-----------	--

#### してはいけないこと：授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること

ジフェンヒドラミン塩酸塩など	乳児に <b>昏睡</b> を起こすおそれがある
アミノフィリン水和物、テオフィリン	乳児に <b>神経過敏</b> を起こすことがある
ロートエキス	乳児に <b>頻脈</b> を起こすおそれがある
センノシド、センナ、ダイオウ、カサントラノール、ヒマシ油類	乳児に <b>下痢</b> を起こすおそれがある
コデイン類	乳児で <b>モルヒネ中毒</b> が生じたとの報告がある

#### してはいけないこと：服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと

抗ヒスタミン成分（ジフェンヒドラミン塩酸塩等）	眠気等の懸念
コデイン類	
催眠鎮静薬（プロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素）	
止瀉薬（ロペラミド塩酸塩、ロートエキス）	
抗コリン薬（スコポラミン臭化水素酸塩水和物等）	眠気、目のかすみ、異常なまぶしさの懸念